

- 一 一人ニテ耕地整理ヲ施行セムトスル者ニ在リテハ事業ノ範圍
  - 二 第三十二條第一號、第二號及第三十三條第二號ノ事項
  - 三 土地各筆ノ字、番號、地目、面積、地價、等位及假地價ヲ附シタルモノニ在リテハ假地價
  - 四 整理施行地區内ノ土地所有者ノ員數並各所有者ノ所有スル土地ノ地目別面積、地價及假地價ヲ附シタルモノニ在リテハ假地價
  - 五 耕地整理法第四十三條ノ土地アルトキハ其ノ表示
  - 六 整理施行地區ヨリ特ニ除外シタル土地アルトキハ其ノ事由
- 整理施行地區内ニ耕地整理法第四十三條第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面、同條第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面ヲ前項ノ申請書ニ添附スヘシ
- 第二十九條 耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ付テハ國ハ之ヲ整理施行者ト看做サス
  - 第三十條 共同施行者ハ耕地整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者一人ヲ定メ耕地整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名、住所ヲ地方長官ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ代表者又ハ其ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合亦同シ
  - 第三十一條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ハ耕地整理施行ノ認可アリタル後滯滞ナク土地原簿及權利者名簿ヲ調製スヘシ
  - 第三十二條 土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
    - 一 整理施行地ノ總面積及總地價
    - 二 整理施行地ノ筆數、面積及地價ノ地目及等位別合計

- 三 土地各筆ノ字、番號及地目
  - 四 耕地整理法第四十三條第二號、第三號ノ土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示
  - 第三十三條 權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
    - 一 土地所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及其ノ所有地ノ字、番號、地目、面積、地價、等位及假地價ヲ附シタルモノニ在リテハ假地價
    - 二 土地各筆ノ價額若ハ等位ヲ評定シ又ハ面積ヲ實測シタルトキハ其ノ價額、等位又ハ面積
    - 三 工作物所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及工作物ノ表示
    - 四 關係人又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領
  - 五 耕地整理法第二十五條第二項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名若ハ名稱、住所及訴訟ノ要領
  - 第三十四條 土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更正スヘシ
  - 第三十五條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ヲ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セムトスル場合ニ於テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 整理施行地區ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地ノ所有



者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ第二十八條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面及第二十八條第一項第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十七條 數人共同シテ施行スル耕地整理ニシテ整理施行地カ一人ノ所有ト爲リタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 第二十二條ノ規定ハ耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレ又ハ之ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引継キタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 耕地整理組合

第三十九條 耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ土地原簿及組合員名簿ヲ調製スヘシ

第四十條 土地原簿ニハ第三十二條ニ掲クル事項ノ外耕地整理法第四十三條第一號及第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示ヲ爲スヘシ

第四十一條 第三十三條ノ規定ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十二條 第三十四條ノ規定ハ耕地整理組合ノ土地原簿又ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十三條 耕地整理法第五十條ノ條件ヲ算定スル場合ニ於テハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ハ之ヲ算入セス

第四十四條 耕地整理組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 第二十八條第一項第二號乃至第六號ノ事項

二 耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一 組合設立ニ同意シタル土地所有者ノ總數及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價並其ノ同意ヲ證スル書面

二 組合ノ地區内ニ耕地整理法第四十三條第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面

三 組合ノ地區内ニ耕地整理法第四十三條第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者、關係人及其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面

四 組合ノ地區内ニ特別ノ價值又ハ用途ヲ有スル土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者及關係人ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得サルトキハ其ノ價值又ハ用途、土地所有者及關係人ノ氏名若ハ名稱並同意セサル事由及之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面

第四十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滞ナク總會ヲ招集スヘシ

前項ノ總會ニ於テハ組合長、組合副長、評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員ノ選舉並組合設立ニ關スル費用其ノ他必要ナル事項ニ付表決ヲ爲スヘシ

第四十六條 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ノ認可申請書ニハ總會、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ特別ノ事情ニ依リ組合員ニ非サル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ尙其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ



第四十七條 組合長ノ就任アリタルトキハ組合設立ノ認可申請者ハ遲滞ナク組合ニ關スル一切ノ事務及書類、帳簿ヲ之ニ引繼クヘシ

第四十八條 耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依ル代表者アルトキハ組合長ハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ

第四十九條 組合會ハ三百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

第五十條 組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第五十一條 組合會ニ於テハ第四十五條第二項ノ表決ヲ爲シ又ハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 組合會議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

第五十三條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ第六十一條第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ組合會議員總數ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 組合會議員ハ組合會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條 總會又ハ組合會ハ少ナクモ毎事業年度一回之ヲ開クヘシ

第五十六條 耕地整理法第五十五條第一項ノ總會議ニ於テハ編入區域ノ土地所有者ハ其ノ編入區域ノ土地所有者ニ非サル者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得ス

第五十七條 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合設立ノ認可申請者又ハ組合長ニ差出スヘシ

第五十八條 評議員ハ三人以上トス

評議員ハ組合長又ハ組合副長ト相兼スルコトヲ得ス

第五十九條 評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員總數ノ五分一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合長カ前項招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル評議員ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

評議員會ノ議事ハ評議員ノ半數以上出席シ其ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第六十條 組合設立ノ認可申請者、組合長、組合副長、臨時代理者、評議員及組合會議員ハ規約ニ別段ノ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第六十一條 總會、總會議、組合會及評議員會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第四十五條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、耕地整理法第五十五條ノ總會議ニ在リテハ編入區域ノ土地所有者ノ一人之ニ當ル

評議員會ノ議事カ業務又ハ財産ノ狀況ノ監査ニ關スルトキハ評議員ノ一人其ノ議長ト爲ル第五十九條第三項ニ依ル評議員會ニ付亦同シ

第六十二條 總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事録ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員ノ現在總數及出席シタル者ノ氏名若ハ



名稱

三 議事ノ要領

四 表決シタル事項

五 贊否ノ數

耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル表決ヲ爲ス總會又ハ總會議ノ議事録ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 組合ノ地區若ハ編入區域内ノ土地ノ所有者總數、總面積及總地價

二 贊成者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價

總會又ハ總會議ノ表決ニ付規約ノ規定ニ依リ特別ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ前二項ニ依ル記載ニシテ其ノ條件ヲ具備シタルコトヲ明カニスルコト能ハサルトキハ之ヲ示スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十三條 組合長ハ耕地整理法第五十五條ノ規定ニ依ル總會議ヲ開カムトスルトキハ招集ノ通知ヲ發スル日ヨリ少ナクモ十日前三日間編入區域ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ編入セムトスル區域及總會議ノ日時、場所及目的ヲ揭示スヘシ

第六十四條 耕地整理法第八十七條ノ規定ニ依ル申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書ヲ、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ協議ノ相手方ニ交付シ且交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ附記スヘシ

協議ノ相手方前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第六十五條 耕地整理法第五十四條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ノ事由及之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シ總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更セムトスル場合ニ於テ組合債アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面、組合ヲ解散セムトスル場合ニ於テハ尙事業報告書及收支決算書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ規定ハ第二項第一號ヲ除クノ外地區變更ノ認可申請ノ場合ニ於テ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラレヘキ土地ニ付之ヲ準用ス

編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ總會議ニ代ヘタル場合ニ於テハ同意シタル土地所有者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ面積、地價ヲ記載シタル書面並其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六十六條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第一號、第二號、第七號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ組合長又ハ最終ニ組合員タリシ者ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ添附シテ其ノ旨ヲ遲滯ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第六十七條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第四號乃至第六號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ遲滯ナク組合長ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第六十八條 組合カ合併シタルトキハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 清算終了シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク清算ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ總組合員ニ報告ス



シ且之ヲ添附シテ清算結了ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

附則

第七十條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年農商務省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第七十一條 耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ本則第四

條、第十條、第十一條、第十九條乃至第二十三條及第二十七條ノ規定ヲ準用スルノ外舊則ノ規定ヲ適

用ス但シ舊則第三十一條中農商務大臣トアルハ地方長官トス

本則第二十一條ノ經費ノ收支豫算ハ整理總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第七十二條 耕地整理法施行前耕地整理ノ發起ノ認可ヲ得タル者ヲ耕地整理組合ト爲サムトスルトキ

ハ發起人又ハ整理委員ハ總會ヲ召集シテ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九

號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ並組合長、組合副長、評議

員ヲ置クモノニ在リテハ評議員ヲ選舉シ總會ノ議事録ヲ添附シテ明治四十四年十月十五日迄ニ耕地

整理組合ト爲スノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

前項ノ總會ニハ耕地整理法及本則ノ規定ヲ適用ス

耕地整理法第七十三條第三項ノ認可申請ハ第一項ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ本

則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 前條ノ場合ニ於テ三百人以上ノ參加土地所有者アルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總代選

舉規程ヲ作りテ地方長官ノ認可ヲ得タル後其ノ選舉規程ニ依リ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代

會ヲ召集シ總會ニ代フルコトヲ得

前項ノ總會ニハ耕地整理法第六十六條、第六十八條第一項並本則第五十二條、第五十三條及第六十

二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ總會又ハ總會ニ在リテハ第七十二條ニ記載シタル事項ノ外必要ナル事項ヲ表

決スルコトヲ得

第七十五條 耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ニシテ耕地整

理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會議ヲ召集シ本則第八條第五

號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規

約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事録ヲ添附シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト

爲ス旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第七十二條第二項及第七十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又

ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第四十四條ノ

規定ヲ準用ス

○耕地整理ニ關シ地方長官へ委任ノ件 明治四十二年十月十三日 農商務省令第四十號

明治三十八年農商務省令第二十三號ヲ左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 耕地整理ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

一 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件



二 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル設計書若ハ規約ノ變更又ハ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ認可ニ關スル件

第二條 耕地整理法第五十一條第一項ニ規定シタル書類ハ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

○耕地整理法又ハ同法施行規則ニ掲ケタル土地原簿權利者名簿

組合員名簿事業報告書收支豫算書收支決算書換地説明書及圖

面調製方 明治四十二年十月十三日 農商務省告示第四百七號

耕地整理法又ハ同法施行規則ニ掲ケタル土地原簿、權利者名簿、組合員名簿、事業報告書、收支豫算書、收支決算書、換地説明書及圖面ハ左ノ様式又ハ雛形ニ據リ調製スヘシ但シ耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ事業報告書、收支豫算書、收支決算書ヲ調製スルノ外舊告示ヲ適用ス

- 一 土地原簿ハ甲、乙ノ二部ニ分チ甲部(第一號様式)ニハ耕地整理法施行規則第三十二條第一號、第二號ノ事項ヲ、乙部(第二號様式)ニハ同條第三號、第四號ノ事項ヲ記載スヘシ
- 二 耕地整理組合ノ土地原簿ノ乙部ニハ前項乙部ニ記載スヘキ事項ノ外耕地整理法第四十三條第一號及第四十四條第一項ノ土地アルトキハ之ヲ表示スヘシ
- 三 權利者名簿ハ甲、乙、丙、丁、戊ノ五部ニ分チ甲部(第三號様式)ニハ耕地整理法施行規則第三十三

條第一號、第二號ノ事項ヲ、乙部(第四號様式)ニハ同條第三號ノ事項ヲ、丙部(第五號様式)ニハ同條第四號中關係人ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領ヲ、丁部(第六號様式)ニハ同號中整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領ヲ、戊部(第七號様式)ニハ同條第五號ノ事項ヲ記載スヘシ

四 組合員名簿ハ前項權利者名簿ノ様式ニ從ヒ之ヲ作製スヘシ但シ第三號様式中所有者トアルヲ組合員トシ其ノ住所、氏名若ハ名稱ノ下ニ代表者ノ欄ヲ設ケ耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依リ代表者ノ住所若ハ居所、氏名若ハ名稱ヲ記載スヘシ

五 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ前各項ニ定メタルモノノ外其ノ各區ニ付第一項甲部及第三項甲部ヲ作製スヘシ

六 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
(一)當該年度末及前年度末ニ於ケル土地所有者又ハ組合員ノ數及其ノ増減  
(二)當該年度末及前年度末ニ於ケル整理施行地區ノ地目別面積及地價並其ノ増減  
(三)工事進捗ノ程度及工事竣成シタル土地ノ利用ノ狀況  
(四)處務ノ要領

(五)會議ノ種類、開會ノ日時、決議ノ要領  
(六)費用及夫役現品ノ分賦收入ノ狀況  
(七)借入及償還ノ狀況  
(八)其他重要ナル事項

第一號、第二號ノ事項ハ前年度ト異動ナキ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

耕地整理法又ハ同法施行規則ニ掲ケタル土地原簿權利者名簿組合員名簿 事業報告書收支豫算書收支決算書換地説明書及圖面調製方



- 七 工事ノ全部完了シタル年度ノ事業報告書ニハ工事著手前及完了後ニ於ケル整理施行地區内ノ土地ノ地目及等位別表ヲ添附スヘシ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分テタル場合ニ於テハ其ノ各區ノ工事完了シタル年度ノ事業報告書ニ付亦同シ
- 八 工事施行ノ效果ヲ知ルニ足ルヘキ調査ヲ行ヒタルトキハ之ヲ事業報告書ニ添附スヘシ
- 九 收支豫算書ハ之ヲ收入、支出ニ大別シ支出豫算ハ更ニ之ヲ經常、臨時ノ二部ニ分テ其ノ各部及收入豫算ハ之ヲ款項ニ區分シテ調製スヘシ但シ必要アルトキハ收入豫算ヲ經常、臨時ノ二部ニ分テ其ノ各部ヲ更ニ款項ニ區分スルコトヲ得
- 十 收支豫算書ニハ各款項ニ付説明スルノ外前年度豫算ト對照シ得ヘキ款項ニ付テハ之カ比較増減ヲ示シ其ノ増減ノ理由ヲ説明スヘシ
- 十一 收支決算書ハ豫算ノ款項ニ依リテ之ヲ調製シ何豫算ト對照シテ比較増減ヲ示シ其ノ増減ノ理由ヲ説明スヘシ
- 十二 換地説明書(第八號様式)ニハ土地所有者又ハ組合員ノ住所、氏名若ハ名稱及其ノ所有地ノ字、番號、地目、面積、等位並之ニ割當テタル換地ノ字、豫定番號、地目、面積、等位ヲ記載シ金錢ヲ以テ清算スルモノニ在リテハ其ノ清算金額ヲ記載スヘシ
- 十三 整理施行地及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖(第一號様式)ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
  - (一) 圖面ノ名稱
  - (二) 整理施行地ノ境界
  - (三) 整理施行地ニ鄰接スル土地ノ現形
  - (四) 府縣、郡、市町村、大字及字ノ境界並其ノ名稱

- (五) 土地各筆ノ境界
- (六) 地目別ノ色別
- (七) 道路、堤塘、溝渠、溜池等及其ノ名稱又ハ番號
- (八) 揚水機、閘門、樋管、掘抜井戸、詰上井戸其ノ他工作物ノ位置及其ノ名稱又ハ番號
- (九) 水流ノ方向
- (十) 方位
- (十一) 縮尺
- (十二) 土地各筆ノ番號
- (十三) 同高線又ハ地盤ノ標高
- 十四 整理施行地區外ニ工事ヲ施行スル場合ハ其ノ土地及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖ヲ前項ノ圖面ニ添附スヘシ
- 十五 整理豫定圖(第二號様式)ニハ第十三項第一號乃至第十一號ノ事項ヲ示シ整理施行地區外ニ工事ヲ施行スル場合ハ其ノ豫定圖ヲ添附スヘシ
- 十六 整理確定圖(第三號様式)ニハ第十三項第一號乃至第十一號ノ事項ノ外換地説明書ト對照スヘキ土地各筆ノ豫定番號及從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分並其ノ符號ヲ示スヘシ
- 十七 耕地整理法第十四條及第十五條ノ土地ニ付テハ朱色點線ヲ以テ其ノ各筆ノ從前ノ地域ヲ整理確定圖ニ示シ且其ノ番號、地目ヲ朱書スヘシ
- 十八 整理豫定圖及整理確定圖ノ縮尺ハ現形圖ト同一タルヘシ

様式(略)

耕地整理法又ハ同法施行規則ニ掲ケタル土地原簿權利者名簿組合員名簿  
事業報告書收支豫算書收支決算書換地説明書及圖面調製方



○耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件

明治四十二年十月十一日  
勅令第二百三十一號

朕耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼カ  
ムトスルトキハ整理施行者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
  - 一 事業ノ現況
  - 二 引繼カムトスル事業及其ノ説明
  - 三 引繼カムトスル事業ニ關スル權利義務ノ明細
  - 四 引繼カムトスル事業ノ爲一年間ニ要スル經費ノ概算
- 前項ノ認可申請書ニハ共同施行者過半数ノ同意又ハ總會ノ議決アリタルコトヲ證スル書面、引繼ヲ  
受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合トノ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ事由ヲ記載  
シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ協議一致セサル事由ヲ記載シタル書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ地方長  
官ハ引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合ノ意見ヲ徵シタル後ニ非サレハ其ノ引繼ヲ認可スルコ  
トヲ得ス
  - 第三條 事業ノ引繼アリタル場合ニ於テ共同施行ニ依ル耕地整理ノ殘務結了シ又ハ耕地整理組合ノ清

- 算結了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク耕地整理事業ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ郡長、市町村  
長又ハ水利組合管理者ニ引繼クヘシ但シ二以上ノ郡、市町村又ハ水利組合ニ事業ヲ引繼キタル場合  
ニ於テハ整理施行者ノ申請ニ依リ地方長官ハ其ノ書類及帳簿ノ引繼ヲ受クヘキ郡長、市町村長又ハ  
水利組合管理者ヲ指定スヘシ
- 第四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更セムトスルト  
キハ總會ニ於テ普通水利組合規約ヲ議決シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 前項ノ許可申請書ニハ事業ノ現況ヲ記載シタル書面及總會ノ議事録ヲ添附スヘシ
- 第一項普通水利組合規約ノ議決ハ組合員三分ノ二以上出席シ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第五條 地方長官ハ耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リ  
タルモノト認メタルトキハ事業ノ引繼ヲ命シ尙耕地整理組合ニ對シテハ普通水利組合ニ變更ノ申請  
ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得
- 郡、市町村又ハ水利組合ハ地方長官ニ前項事業引繼ノ命令ヲ申請スルコトヲ得

附則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中耕地整理組合ニ關スル規定ハ耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得耕地整理法施行後耕地  
整理組合ト爲ラサル者ニシテ耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村又ハ水  
利組合ニ引繼ク場合ニ之ヲ準用ス



○耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル公共團體指定

明治四十二年十月十一日  
勅令第二百三十二號

朕耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依ル公共團體指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

郡組合

市町村内ノ區、町村組合、町村學校組合及其ノ區

市制町村制ヲ施行セサル地ノ區町村内ノ部、町村組合、町村學校組合及其ノ區

水利組合

北海道土功組合

附則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○耕地整理地取扱手續  
明治四十二年十月二十六日  
大藏省訓令第二十八號

耕地整理地取扱手續左ノ通定ム

稅務監督局 稅務署

第一條 耕地整理施行者ヨリ整理施行ノ認可アリタルコトノ申告アリタルトキハ相當調査ヲ爲シ其ノ

地區内ニ耕地整理法第十五條第一號ノ土地アルトキハ工事著手前實地臨檢ノ上毎筆地價ノ修正又ハ

設定ヲ爲シ土地臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ

第二條 耕地整理施行者ヨリ工事了ノ申告アリタルトキニ於テ耕地整理法第十四條第一項、第三項

及第十五條第二號ニ依リ從前ノ地域ニ依リ地價ヲ設定又ハ修正スヘキ土地アルトキハ實地臨檢ノ上

直ニ之カ設定又ハ修正ヲ爲スヘシ

第三條 耕地整理施行者ヨリ地價配賦ノ請求アリタルトキハ實地臨檢ノ上毎筆ニ地價ヲ附シ相當ニ地

價ヲ配賦スヘシ

第四條 整理地ノ地番ハ其ノ地區内ニ於ケル從前ノ地番中首位ニ在ルモノヨリ順次之ヲ附シ從前ノ地

番ノ最終番ヲ超エル場合ニ於テハ便宜ノ土地ニ付一二三等ノ符號ヲ附シタル地番ヲ用フヘシ但シ其

ノ順位ニ當ル地番地區外ノ土地ニ在ルカ爲重複スルトキハ之ヲ除外スヘシ

第五條 耕地整理法施行規則第十五條ニ該當スル土地アルトキハ實地ノ狀況ニ依リ工事ノ利益ヲ受ケ

タルヤ否ヤヲ調査シ相當處理スヘシ

第六條 整理地ニ關スル土地臺帳ノ登錄ハ新ニ之ヲ爲シ從前ノ登錄ハ其ノ沿革欄ニ異動ノ事由ヲ記入

シ置クヘシ

第七條 前條ニ依リ整理地ヲ土地臺帳ニ登錄シタル場合ニ於テ變換ノ後五年開墾著手後九年ヲ經過セ

サルモノ又ハ各種ノ年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期終了セサルモノアルトキハ荒地臺帳變換地臺

帳其ノ他ノ臺帳ニ於ケル當該土地ノ事故欄ニ耕地整理ノ爲變換又ハ年期消滅ノ旨ヲ記入シ其ノ記載

事項ヲ朱抹スヘシ



第八條 耕地整理法第十六條ニ依リ事業關係者ニ於テ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セサルトキハ實地ノ狀況ニ依リ公平適實ニ之ヲ定ムヘシ

第九條 耕地整理法第十六條ニ依リ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ金額ハ土地臺帳ノ沿革欄ニ其ノ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ期間及金額ヲ記載シ其ノ期間中ハ其ノ金額ヲ加除シテ地租ノ徵收ヲ爲スヘシ

前項ノ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付テハ別記様式ノ帳簿ヲ作り之ヲ整理スヘシ

第十條 土地臺帳ノ整理ヲ了シタルトキハ有租地集計簿ヲ整理スヘシ

第十一條 耕地整理ニ關スル圖面ハ永久之ヲ保存スヘシ

様式(略)

○内務省主管ニ屬スル國有地ヲ整理地區ニ編入ノ申請ヲ地方

廳限リ許否方 明治三十三年六月五日  
内務省訓令第十八號

府 縣 沖繩縣  
ヲ除ク

明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ當省主管ニ屬スル國有地ヲ整理地區ニ編入ノ認許ヲ申請スル者アリタルトキハ其廳限リ之カ許否ヲ爲スヘシ

但本大臣ニ於テ改修工事ヲ施行スル河川又ハ河川法ヲ施行シタル河川若ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川ニ關係アル土地水面、國道、縣道、社寺境内地、名勝地、舊蹟地、古墳墓地及官廳ノ所在地ハ此限ニ在ラス

○國有林野耕地整理施行地區編入手續 明治四十二年十月十四日  
農商務省訓令第三十七號

大林區署

國有林野耕地整理施行地區編入手續左ノ通定ム

國有林野耕地整理施行地區編入手續

第一條 國有林野ヲ整理施行地區ニ編入ノ申請アリタルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ大林區署長之ヲ認許スヘシ但シ面積二町歩ヲ超ユルトキ又ハ編入ヲ認許スヘカラスト認メタルトキハ意見ヲ具シ稟伺スヘシ

前項ノ認許書ハ之ヲ地方長官ニ送付スヘシ

第二條 前條ノ認許ヲ與フルハ整理施行地區内ノ不要存置林野ニシテ整理施行上必要ノ箇所ニ限ル

第三條 地方長官ヨリ第一條ノ申請書ノ送付アリタルトキハ速ニ實地ノ調査ヲ爲スヘシ

第四條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立認可ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ整理施行地區ニ編入シタル國有林野ノ賣拂手續ニ著手スヘシ

第五條 整理施行地區ニ編入ヲ認許シタル國有林野ノ内道路、堤塘、溝渠、溜池等他ノ官有地ニ組替ヲ要スルモノハ工事完了ノ後組替ノ手續ヲ爲スヘシ

附 則

第六條 本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 前數條ノ規定ハ耕地整理法施行前發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者カ國有林野ヲ耕地整理地區

内務省主管ニ屬スル國有地ヲ整理地區ニ編入ノ申請ヲ地方廳限リ許否方  
國有林野耕地整理施行地區編入手續



ニ編入セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

三三三

○耕地整理及土地改良獎勵費規則

明治四十二年四月一日  
農商務省令第二號

耕地整理及土地改良獎勵費規則左ノ通定ム

耕地整理及土地改良獎勵費規則

- 第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス
- 第二條 補助金ハ左ニ掲クル府縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス
  - 一 耕地整理及土地改良ノ施行ニ關シ當該年度ニ於テ行フ調査、設計、工事監督等ニ要スル費用
  - 二 耕地整理事業中當該年度ニ於テ行フ道路、堤塘、溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對スル補助金
- 第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ前年度三月中ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
  - 一 前條第一號ノ補助金ニ付テハ調査、設計、工事監督等ノ施行豫定書、設備豫定書及費用豫算書並調査、設計、工事監督等ノ實施ニ關スル規程
  - 二 前條第二號ノ補助金ニ付テハ補助金豫算書、其ノ説明書及補助金ノ交付ニ關スル規程
- 第四條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ前條ノ添附書類ニ記載シタル豫定、豫算又ハ規程ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用又ハ補助金ノ額ヲ増加スルトキハ補助金ノ増加交付ヲ申請スルコトヲ得

- 第五條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ハ別記第一號乃至第四號様式ニ依リ當該年度ニ於ケル調査、設計、工事監督等ノ成績及補助金交付ノ成績ヲ翌年度五月末日迄ニ費用及補助金ノ決算ヲ同十一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ第八條ノ規定ニ依ル義務ノ存スル場合亦同シ
- 第六條 調査、設計、工事監督等ニ關スル職員ヲ任用シタルトキハ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名、職名及俸給額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ其事項ニ變更アリタルトキ又ハ職員ヲ免シタルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

前項ノ規定ハ囑託員ニ之ヲ準用ス

- 第七條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ第三條第一號ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命シ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ増加交付ヲ爲スコトアルヘシ
- 第八條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計、工事監督等ニ關スル施行豫定ノ施行ヲ當該年度内ニ終了シ得サルトキハ年度後ニ於テ之ヲ繼續遂行スルノ義務アルモノトス

府縣ニ於テ補助金豫算書ニ定メタル補助金ノ交付ヲ當該年度内ニ終了セサルトキハ當該年度後ニ於テ行フ第二條第二號ノ費用ニ對シテモ尙之ヲ交付スルノ義務アルモノトス

第九條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ對シ調査ヲ命シ若ハ報告ヲ徵シ又ハ實地検査ヲ爲スコトヲ得

第十條 府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ、第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得農商務大臣



ニ於テ府縣ノ施行成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附則

第十一條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十二年度ニ限り第三條中前年度三月中トアルヲ明治四十二年四月中トス  
(別記)略

○森林法 明治四十年四月二十二日  
法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章 總則

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス  
前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス  
第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス  
前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス  
第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變

更スル行爲ヲ謂フ

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有者若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セス但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督

第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得



前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三章 保安林

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ墜崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ

五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ

六 魚附ノ爲必要ナルトキ

七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ

八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ

九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十七條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ

第十九條 地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ

保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得



第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス  
第四章 土地ノ使用及收用

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依ル通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ  
第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ  
第四十五條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十八條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十九條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ、裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁

決確定セサルトキト雖土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ



土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十一條 前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セラルルモノトス

第五十三條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十五條 土地ノ使用若バ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得  
前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 土地收用法第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

ス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府カ之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 流木竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條 前數條ノ外流木竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ



之ヲ設立スルコトヲ得

三四四

- 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ
  - 二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ
  - 三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之レヲ維持スル爲メ關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
  - 四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
- 第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス
- 第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル
- 第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
  - 二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト
- 第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 目的及事業
  - 二 地區
  - 三 名稱

#### 四 事務所

#### 五 出資又ハ費用分擔ノ方法

- 六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス
- 監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 決議ノ取消
  - 二 役員ノ解職
  - 三 組合ノ解散
- 第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス



前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス  
 第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス  
 第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト  
 二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト  
 三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト  
 四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト  
 五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト  
 第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手板、帳簿及器具ニ付檢査ヲ行フコトヲ得  
 第七十八條 森林又ハ之ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ  
 第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス  
 第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ窃取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ



- 二 賊物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 賊物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石炭、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
- 四 賊物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橋ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
- 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
- 六 森林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
- 七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
- 八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
- 九 差押ノ賊物ヲ隠匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ
- 十 夜間犯シタルトキ
- 第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林窃盜ノ賊物ト看做ス
- 第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林窃盜ノ賊物ノ回復ニ之ヲ適用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第八十七條 森林窃盜ノ賊物ナルコトヲ知りテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贖額以上贖額ニ倍以下ノ罰金ニ處ス
- 第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贖額ノ二倍カ二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス
- 第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森

林ノ主産物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處ス

- 第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
- 第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス
- 第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ
- 前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得



第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ

第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス  
第八章 附則

第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四〇年勅三四六號ヲ以テ  
四一年一月一日ヨリ施行)

第一百六條 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中保安林ニ關スル規定ニ限リ之ヲ施行ス

前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第一百七條 本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第一百八條 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス

第一百九條 公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要領ハ第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一百十條 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十一條 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第一百十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

○森林法施行規則 明治四十年十二月二十六日 農商務省令第二十一號

森林法施行規則左ノ通定ム

森林法施行規則

第一條 公共團體又ハ社寺カ森林ヲ得喪シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ代表者ハ遲滯ナク第一號様式ニ準シテ届書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地カ森林タルニ至リシトキハ其ノ代表者ハ遲滯ナク第二號様式ニ準シテ届書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ



第二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル原野山嶽、荒蕪地又ハ森林タリシモノニシテ現ニ荒蕪セルモノニ付森林トシテ管理スヘキモノト否トヲ區分シ第三號様式ニ準シテ區分書ヲ作り地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ  
地方長官ハ區分ヲ更正シテ前項ノ認可ヲ與フルコトヲ得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケタル區分ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付第四號又ハ第五號様式ニ準シテ管理ノ方法ヲ記載シタル屆書ヲ作り地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ地方長官ニ於テ森林法第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケシムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ届出テタル方法ヲ變更シタルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定シ若ハ造林ヲ命シタル者ニ之ヲ準用ス

第五條 森林法第十一條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ

第六條 森林法第十三條ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ハ慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第七條 保安林編入解除ノ申請書ハ第六號様式ニ準シテ之ヲ作り第七號又ハ第八號様式ニ準シテ作りタル圖面ヲ添付スヘシ但シ全部ノ解除ニ付テハ圖面ノ添付ヲ要セス

第八條 森林法第十七條ノ規定ニ依リ申請書ヲ却下スル場合ニ於テハ理由ヲ附シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク森林法第二十三條ノ通知及揭示ヲ爲スヘシ

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ都度之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ森林法第十八條ノ規定ニ依ル告示アリタル森林ニ關シテモ亦同シ

一 森林所有者ノ變更

二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ爲シ届書ニ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止又ハ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十二條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フヘシ

第十三條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損害ハ其ノ伐採禁止ノ當時存在スル森林立木竹ヲ普通保安林ノ立木竹トシテ價額ヲ見積リ其ノ價額ノ年利五厘ニ相當スル金額ヲ以テ毎年ノ直接損害額ト看做シ之ヲ算定スヘシ

前項損害ノ算定ニ付テハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ當時其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ其ノ伐期ニ達シタル當時ノ立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ以テ普通保安林ノ立木竹ノ價額ト看做ス但シ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ時價ニ對スル割引ノ歩合ヲ増減スルコトヲ得



第十四條 伐期ニ達セサル森林ニ付テハ其ノ伐期ニ達シタル年ヨリ前條ノ補償ヲ爲スモノトス  
前項ノ伐期ハ農商務大臣ニ於テ樹種作業別及地方ノ慣行等ヲ斟酌シテ之ヲ定メ伐採禁止ノ際地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十五條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害額ハ造林ニ要シタル實費額ニ依ルモノトス

第十六條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求期間ハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ命令ヲ受タケル日ヨリ九十日、其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ第十四條第二項ノ規定ニ依リ定マリタル伐期ニ達シタル年ノ初日ヨリ末日迄トス

森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求期間ハ各年分ニ付翌年三月三十一日迄トス  
第十七條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ損害算定書ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ請求者ニシテ立木竹ノミノ所有者ナルトキハ其ノ所有ヲ證スヘキ書面ヲ請求書ニ添附スヘシ  
第十八條 森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依ル負擔ノ要否及其ノ金額ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ決定スヘシ

前項ノ負擔金額ハ地方長官ニ於テ之ヲ徵收ス  
第十九條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル開墾ノ制限又ハ禁止ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
第二十條 森林法第四十條ノ規定ニ依リ土地使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 使用スヘキ土地ノ所在、地番、種目、所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所

二 使用面積

三 使用ノ時期及期間

四 使用ノ目的

第二十一條 使用スヘキ土地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ前條ノ申請書ニ添附スヘシ

一 御料墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊跡及古墳墓

第二十二條 前二條ノ規定ハ森林法第四十條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 森林法第五十五條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メムトスル者ハ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ

一 申請人及相手方ノ氏名、名稱、住所

二 使用又ハ收用スヘキ土地ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所



三 申請ノ目的及理由

四 立證方法

第二十五條 森林法第五十六條ノ規定ニ依リ土地收用法第六十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ爲ス公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依ル水ノ使用ニ關スル權利、其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第二十七條 森林法第五十八條ノ規定ニ依リ工作物ノ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及必要ノ圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ  
前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ種類、所在、位置等

二 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所

三 使用、變更又ハ除却ノ時期及期間

四 使用、變更又ハ除却ノ目的

五 其ノ他工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ關スル重要ノ事項

第二十八條 前條ノ規定ハ森林法第五十八條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二十四條ノ規定ハ森林法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求ムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方森林會ノ裁決ハ會長ニ於テ其ノ謄本ヲ當事者ニ交付スヘシ

第三十二條 森林法第六十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セムトスル者ハ地方長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十三條 森林法第六十七條但書ノ規定ニ基キ森林組合ニ加入ノ義務ナシト定メタル者ノ員數及其ノ所有ニ係ル森林面積ハ之ヲ同法第六十六條各號ノ計算ニ加ヘス

第三十四條 森林組合設立ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ定款ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ示シ期間ヲ指定シテ意見ヲ申出テシムヘシ

森林組合設立ノ際第三十六條第二項ノ規定ニ依リ加入義務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ期間内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第三十五條 森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及前條第一項ノ規定ニ依ル意見書其ノ他森林法第六十六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三十六條 御料林又ハ國有林ニ付テハ皇室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

前項以外ノ森林ニシテ試験、演習等特種ノ目的ニ供セラレ若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ其ノ森林所有者ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

第三十七條 森林法第九條、第十條、第二十七條又ハ第七條ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル森林カ森林組合ノ經營ニ屬シタル場合ニ於テ其ノ處分ノ變更又ハ解除ヲ要スルモノアルトキハ森林組合ハ其ノ



處分ヲ爲シタル官廳ニ對シ其ノ變更、解除ヲ申請スルコトヲ得

第三十八條 森林組合ニ於テ森林ノ施業案若ハ施業要領、造林計劃、林道若ハ河川ニ關スル工事、其ノ他事業ノ計劃設計ヲ定メムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項認可申請書ニハ其ノ費用及其ノ收支ニ關スル豫定ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三十九條 森林組合ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任解任ノ方法、員數及任期ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四十條 森林組合合併ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

森林組合解散ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書及總會ノ決議錄ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第四十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ森林組合ハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

一 定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 理事、監事ノ選任若ハ解任アリタルトキ又ハ其ノ缺ケタルトキ

三 森林組合令第十六條第一號第二號又ハ第五號ノ事項ヲ定メタルトキ

四 森林組合令第二十三條第二項ノ書類ニ付總會ノ調査ヲ經タルトキ

第四十二條 森林組合ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十三條 森林法第七十八條ノ規定ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ御料林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ帝室林野管理局森林官吏、國有林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テ

ハ林區署森林官吏其ノ他ノ森林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ警察官吏ニ申請スヘシ

火入ヲ爲サムトスル森林又ハ土地カ他人ノ所有若ハ占有ニ屬スルトキハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ但シ御料林又ハ國有林内ノ火入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ準シテ許可證ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ

前項ノ許可證ハ火入者ニ於テ火入ノ際之ヲ携帯スヘシ

第四十五條 火入ニ付延燒其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ハ何時ニテモ火入ノ差止

又ハ火入ノ方法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 森林又ハ之ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲シタル者ハ火氣消滅シタル後ニ非サレハ其ノ場所ヲ立去ルコトヲ得ス

第四十七條 第十條ノ規定ハ森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命シタルモノニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シ

タル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ

第四十九條 第四條、第十條、第二十三條第一項、第二十六條、第二十九條、第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第五十條 本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十一條 地方長官前條ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ保安林カ舊森林法ノ規定ニ基キ土地所



有者ニ對シ施業法要領ヲ通達シタルモノナルトキハ遲滞ナク更ニ森林所有者ニ對シ之ヲ通達スヘシ  
 其ノ届出前前條ノ保安林所有者アルコトヲ知リタルトキ亦同シ  
 第五十二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ本則施行ノ際現ニ存在スル公有林又ハ社寺有林ニ付第十號  
 様式ニ準シテ届書ヲ作り本則施行後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スヘシ  
 第五十三條 本則施行前第三條若ハ前條ノ届出ニ相當スル届出ヲ爲シ又ハ第二條ノ認可ニ相當スル認  
 可ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ届出又ハ認可ハ本則ニ依リタルモノト看做ス  
 第五十四條 本則ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 様式(略)

○森林法施行手續

明治四十年十二月二十六日  
 農商務省訓令第三十號

府 縣

森林法施行手續左ノ通定ム

森林法施行手續

第一條 森林法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定セムトスルトキハ第一號様式及第二號様式  
 ニ準シ施業方法及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ之ヲ添附スヘシ  
 第二條 地方長官森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ森林所有者  
 ニ通知スヘシ  
 第三條 地方長官ハ保安林ノ編入解除及森林法第三十二條ノ處分ニ關スル調査ヲ行フヘシ  
 前項ノ調査ハ利害關係顯著ナルモノヨリ逐次之ニ著手スヘシ但シ保安林ノ編入解除ニ付申請アリタ

ルトキ又ハ官廳ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ箇所ノ調査ヲ行フヘシ

第四條 保安林編入ニ關スル調査ハ其ノ編入ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分シテ之ヲ行フヘシ

- 一 土砂扞止林
- 二 飛砂防止林
- 三 水害防備林
- 四 防風林
- 五 潮害防備林
- 六 積雪防止林
- 七 墜石防止林
- 八 水源涵養林
- 九 魚附林
- 十 目標林
- 十一 衛生林
- 十二 風致林

前項ノ場合ニ於テ編入ノ目的二種以上ニ涉ルモノアルトキハ其ノ主ナル目的ニ依リ前項ノ區分ヲ爲  
 スヘシ

第五條 保安林編入解除ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ作成スヘシ

- 一 保安林編入調査 第三號様式及第四號様式
- 二 保安林調査地圖 第五號様式



三 保安林解除調書

第六號様式

四 保安林解除地圖

(全部解除ノ場合ヲ除ク)第七號様式

前項ノ外必要ニ應シ編入解除ノ區域、其ノ附近ノ地形並地物配置ノ状態ヲ明ニシタル概況圖ヲ作成スヘシ

第六條 保安林編入解除ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル場合ニ在リテハ關係地方長官協議ノ上保安林調査ヲ爲スヘシ

第七條 地方長官ニ於テ保安林ノ解除ヲ必要ト認メ又ハ保安林解除ノ申請若ハ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ關係地方長官ニ通知シ意見ヲ求ムヘシ

第八條 森林法第二十一條ノ規定ニ依ル意見書ハ之ヲ地方森林會ニ送附スヘシ

第九條 森林法第十八條ノ通知及告示ヲ爲タル日、地方森林會ノ開會及閉會ヲ爲シタル日ハ之ヲ森林法第二十二條ノ規定ニ依リ差出スヘキ關係書類ニ於テ明瞭ナラシムヘシ

第十條 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ルヘシ但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其ノ他必要ナル目的ノ爲皆伐ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 保安林ハ一箇所(編入調書ノ一筆)毎ニ施業ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 保安林一箇年間ノ伐採面積ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商以內トシ隔年作業ニ在リテハ其ノ商ニ隔年ノ年數ヲ乘シタル積ヨリ大ナラシムルヲ得ス但シ伐採區域ハ擇伐ニ在リテハ伐採面積三倍以上ナルヲ要ス

保育ノ爲爲ス木竹ノ伐採又ハ枯木竹、損木竹、危險木竹、若ハ支障木竹ノ伐採ハ木竹伐採ノ禁止又ハ

施業方法ノ指定ニ拘ラス之ヲ行ハシムルコトヲ得但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害スル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 散生地、無立木地又ハ荒廢地タル保安林ハ可成速ニ造林セシムヘシ

第十四條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第十五條 森林法施行規則第十二條ニ依ル認可ノ申請書ニハ損害算定書ヲ添附シ同規則第十八條ニ依ル認可申請書ニハ森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依ル負擔ノ要否及其ノ金額ニ付意見ヲ具スヘシ

第十六條 地方長官ハ保安林ニ付開墾許可ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ開墾ノ爲森林タルヲ失ハサルモノノ外之ヲ許可スルヲ得ス

第十七條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ作成スヘシ

- 一 開墾制限(禁止)調書 第八號様式及第九號様式
- 二 開墾制限(禁止)地圖 第十號様式
- 三 開墾制限(禁止)解除調書 第十一號様式及第十二號様式
- 四 開墾制限(禁止)解除地圖(全部解除ノ場合ヲ除ク) 第十三號様式及第十四號様式

第十八條 第六條及第七條ノ規定ハ森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ之ヲ準用ス

第十九條 森林法施行規則第十九條ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ利害關係者ニ知ラシムル爲便宜ノ方法ヲ執ルヘシ

第二十條 森林法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應セムト



スル場合ニ於テ官廳ノ管理ニ屬スル物件又ハ現ニ公用ニ供スル物件ニ係ルモノアルトキハ豫メ其ノ物件ヲ管理スル官廳又ハ管理者ニ協議ヲ爲スヘシ

第二十一條 森林法第七十二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ組合ノ解散ヲ命セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 森林法第七十六條ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ヲ所轄區域内又ハ其ノ附近ニ在ル小林區署又ハ帝室林野管理局支廳出張所ニ通知セシムヘシ其ノ届出ニ係ル記號、印章ノ變更又ハ其ノ使用廢止ノ届出ヲ受理シタルトキ亦同シ

第二十三條 森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ蟲類以外ノ動物又ハ微菌ノ驅除豫防ニ關シ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 動物又ハ微菌ノ名稱、其ノ方言

二 主ナル被害產物ノ種類並被害ノ狀況

三 驅除豫防ノ方法

第二十四條 森林害蟲等ノ蔓延隣接府縣ニ及ハムトスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第二十五條 二府縣以上ニ涉リ害蟲等蔓延シタルトキハ關係地方長官協定シテ驅除豫防ヲ行フヘシ

第二十六條 森林法第七七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命セムトスルトキハ第十五號様式及第十六號様式ニ準シ造林方法書及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ添附スヘシ

第二十七條 森林法第七七條ノ規定ニ依リ命スル造林ノ完了年限ハ可成速成ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

シ

第二十八條 森林法第八八條ニ該當スル保安林ハ明治四十三年度末迄ニ之ヲ調査スヘシ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

一 森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止若ハ指定ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ第三號様式及第四號様式ニ準シテ作成シタル調査ヲ添附スヘシ

二 同法第三十二條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ第八號様式及第九號様式ニ準シテ作成シタル調査及第十號様式ニ準シテ作成シタル圖面ヲ添附スヘシ

三 第一號及第二號ノ制限、禁止又ハ指定ヲ變更、解除スルノ必要アリト認ムルトキ

第三十條 地方長官ニ於テ森林法第十一條第一項、第三十四條又ハ第七七條第二項ノ規定ニ依リ造林ヲ行ハムトスルトキハ其ノ理由及左ニ掲クル事項ヲ具シタル認可申請書ニ第十七號様式ニ準シテ作成シタル造林事業豫算書ヲ添附シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 造林費ノ徵收ニ關スル事項

二 義務者ノ資力ニ關スル事項

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 森林法第九條第一項ノ規定ニ依リ府縣令ヲ發シタルトキ

二 森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキ

三 森林法第六十條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ

四 同法第七十一條第二項ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ



- 五 同法第七十六條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ  
第三十二條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ニ報告スヘシ  
一 森林法第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ變更ヲ命シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ施業案ニ關スルトキハ其ノ施業案ヲ添附スヘシ
- 二 同法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業ノ方法ヲ指定シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ指定ヲ要スル理由ヲ具シ施業方法書ヲ添附スヘシ
- 三 同法第十條第二項、第三十三條又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ森林法第七條ノ規定ニ依ル造林命令ニ關スルトキハ造林方法書ヲ添附スヘシ
- 四 同法第十一條第一項、第二十四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ執行シタル造林ヲ終了セルトキ  
此ノ場合ニ於テハ造林費ノ徵收ニ關スル事項ヲ具シ第十八號様式ニ準シテ作成シタル造林事業實行書ヲ添附スヘシ
- 五 第二號又ハ第三號ノ指定又ハ命令ヲ變更解除シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 六 森林法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 七 同法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應シタルトキ

- 八 同法第五十五條、第五十七條又ハ第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ使用、變更又ハ除却スヘキ物件、期間、時期、目的、方法等ニ關スル重要ナル事項ヲ具シ且必要ニ應シ事業計劃書又ハ圖面ヲ添附スヘシ
- 九 森林組合ノ設立ヲ許可シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ組合員ノ數、組合員ノ所有スル森林面積等ヲ具シ且定款ノ寫ヲ添附スヘシ
- 十 同法第六十八條第三項ノ規定ニ依リ定款變更ノ認可ヲ與ヘタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ變更ニ係ル事項中著シキモノニ關スル理由ヲ具スヘシ
- 十一 森林法施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ事業ノ計劃又ハ設計ヲ認可シタルトキ但シ輕微ナルモノヲ除ク  
此ノ場合ニ於テハ計劃又ハ設計ノ大要ヲ具シ又ハ必要ニ應シ計劃書若クハ設計書ヲ添附スヘシ
- 十二 森林法施行規則第四十一條第一號若ハ第四號ノ報告又ハ同條第三號中森林組合令第十六條第二號ノ事項ノ報告ヲ受ケタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ報告書寫ヲ添附スヘシ
- 十三 森林組合ノ合併ヲ認可シタルトキ  
此ノ場合ニ於テハ合併ヲ要スル理由ヲ具シ且合併契約書寫ヲ添附スヘシ
- 十四 森林法第七十二條第一號又ハ第二號ノ處分ヲ爲シタルトキ



此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ  
十五 森林組合ノ解散ノ届出ヲ受ケタルトキ

此ノ場合ニ於テハ解散ノ事由ヲ具スヘシ

十六 森林害蟲等蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキ又ハ森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ森林害蟲等ノ驅除豫防ヲ命シ若ハ自ラ之ヲ行ヒタルトキ

此ノ場合ニ於テハ害蟲ノ名稱、方言、主ナル被害産物ノ種類、被害ノ狀況、驅除豫防ノ方法ニ關スル事項ヲ具スヘシ

附則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式(略)

○北海道保安林ニ關スル特例 明治四十年十二月二十五日 勅令第三百四十九號

朕北海道保安林ニ關スル特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 森林法第十四條、第十五條、第二十七條、第三十二條及第三十六條ノ規定中主務大臣ノ職權ハ北海道ニ在リテハ道廳長官之ヲ行フ

第二條 森林法第十六條第一項ノ申請ハ北海道ニ在リテハ道廳長官ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 森林法第二十三條ノ規定ニ依ル官報ノ告示ハ北海道ニ在リテハ道廳長官ニ於テ道廳公布式ヲ

以テ之ヲ爲スヘシ

第四條 北海道ニ於ケル區役所戸長役場ハ森林法第十八條第一項及第二十三條ノ場合ニ於テハ市町村役場ニ該當ス

第五條 森林法第二十四條ニ依ル訴願ハ北海道ニ在リテハ内務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 森林法中地方森林會ニ關スル規定ハ當分ノ内北海道ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道保安林編入解除手續ハ之ヲ廢止ス

○國有林野法 明治三十二年三月二十二日(改正四一年) 法律第八十五號(改正七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得 組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有

北海道保安林ニ關スル特例 國有林野法



林野ニ編入ス

社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得  
第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ隣接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求  
メ施行スヘシ

隣接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ隣接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其  
ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ  
得

第七條 隣接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁  
判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
- 三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
- 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
- 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ

成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約  
ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ  
前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上  
ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得



第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ讓與スルコトヲ得

一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ  
二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス  
第十七條 社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得  
第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス  
第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ都合ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス  
第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂並其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得(四一年法第七號)

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○國有林野法施行規則 明治三十二年八月三日(改正) 三五年省二四號三七年省九號三八省二〇號四一年省二二號四二年省一二、五三號

國有林野法施行規則左ノ通定ム

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由

國有林野法施行規則



ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ内務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ添附スヘシ

第二條ノ二(三八年省) 内務農商務兩大臣ハ地方長官ヲシテ國有林野法第三條第三項ノ境内編入ヲ爲サシムルコトヲ得

第二章 境界査定

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少クモ其ノ期日ヨリ五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ隣接地所有者ニ通告スヘシ但シ隣接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニアラス(三八年省)

第四條 隣接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終ハリタルトキハ大林區署長ハ直ニ其ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ(同上)

第六條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
隣接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第七條 隣接地所有者通告書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ差出スヘシ郵便ヲ以テ通告書ヲ送付ヲ爲ストキハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條ノ二(四〇年省) 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ隣接地所有者ニ對シ通告書ヲ送付ヲ爲ス能ハサルトキハ大林區署長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此

場合ニ於テハ其ノ公告ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告アリタルモノト看做ス

第三章 賣拂

第七條 國有林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
- 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
- 三 府縣設置以前重要ナル產物ノ採收ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採收ヲ爲シタル者(三七年省九號)
- 四 府縣設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ入會ヲ爲シタル市町村又ハ市町村内ノ一部城址ニ在リテハ其ノ舊藩主
- 五 神祠、佛堂、墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其ノ遺跡ニ緣故アル者
- 六 古記、社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺
- 七 鑛業法第五十六條ニ掲クル目的ノ爲貸付シ又ハ使用セシメタル國有林野ニ在リテハ採掘權者(三八年省) (三二號)
- 八 保安林ニ在リテハ其ノ直接利害關係者(三八年省) (三二號)
- 九 耕地整理施行地區ニ編入セル林野ニ在リテハ其ノ地區内ノ土地所有者又ハ耕地整理組合(四二年省) (三二號)
- 十 其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖及左ノ書面ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ



一 賣拂ノ事由ニ關スル證據書類アルトキハ其ノ書類  
 二 國有林野法第八條第一號ニ掲クル事由ニ依ル出願ニ在リテハ其ノ賣拂ヲ受クル目的ニ關スル計畫又ハ施業ノ方法書

第七條ノ三(同上) 賣拂ノ許可アリタルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納付シ契約擔任官吏ト共ニ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置クヘシ但シ賣拂代金千圓ニ滿タサル場合ハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

買受人前項ノ指定期間内ニ契約ヲ締結セサルトキハ大林區署長ハ賣拂ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ハ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ但シ契約保證金アルトキハ政府ノ所得トシ違約金ヲ徵收セス

第七條ノ四(同上) 左ノ場合ニ在リテハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

一 府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ニ賣拂フトキ

二 賣拂代金百圓ニ滿タサルトキ

三 賣拂豫約ニ基キ賣拂フトキ

四 公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フトキ

第七條ノ五(同上) 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ニ充當スルコトヲ得

有價證券ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ヲ完納シタルトキ之ヲ還付スヘシ

第七條ノ六(同上) 林野ノ引渡ハ代金完納ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

買受人ハ林野引渡前ニ在リテハ大林區署長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ林野及之ニ存在スル產物ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

買受人林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ作り之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第七條ノ七(同上) 林野ノ附帶義務ハ買受人之ヲ承繼ス

賣拂物件ノ面積、數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條ノ八(同上) 買受人第七條ノ六第二項ノ規定ニ違反シ又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付セサルトキハ大林區署長ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トシ契約保證金ナキトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

賣拂豫約ニ基ク賣拂ノ買受人納付期限内ニ代金ヲ納付セサル場合ニ於テハ違約金トシテ一日ニ付賣拂代金ノ百分ノ一ニ當ル金額ヲ徵收スルコトヲ得

第七條ノ九(三九年省) 特定ノ目的ヲ以テ賣拂ヲ受ケタル者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ目的以外ニ林野ヲ使用シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ半額ニ相當スル金額ヲ徵收スヘシ

第七條ノ十(三八年省) 不要存置國有林野ノ賣拂ニ關シ特ニ必要ナル事項及本章ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第四章 賣拂豫約

第八條 國有林野法第九條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂豫約ヲ出願セントスル者ハ願書ニ事業方法書、收支豫算書及實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ



第九條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 實測面積
- 二 開墾ノ方法及順序
- 三 開墾豫定圖
- 四 開墾著手ノ時期
- 五 毎年開墾スヘキ豫定面積
- 六 成功期限

第十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ノ面積ハ四百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ林野ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 成功期限ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第九條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

成功期限ノ延長ヲ許可シタルトキト雖通算シテ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 開墾者賣拂豫約ノ目的タル林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出スヘシ

第十四條 開墾者ハ林野ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ境界標ヲ建設スヘシ

第十五條 開墾者ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外賣拂豫約ノ當時其ノ林野ニ存スル產物ヲ處分シ又ハ使用スルコトヲ得ス

第十六條 開墾者ハ前年度ニ於ケル開墾ノ成績ヲ次年度ノ初日ヨリ一箇月以内ニ大林區署長ニ報告スヘシ

第十七條 大林區署長又ハ小林區署長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得(三九年省)

第十八條 開墾者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ又ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第十九條 相續ニ因リテ開墾者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍吏ノ證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第十九條ノ二(三九年省) 開墾者ハ成功期限後三十日以内ニ賣拂ヲ出願スヘシ

開墾カ成功セサル場合ニ大林區署長ニ於テ分割シテ賣拂差支ナシト認ムルトキハ區域及代金ヲ定メ其ノ開墾既濟部分ヲ賣拂フコトヲ得

開墾成功セサルカ爲豫約地ヲ返還スル者ハ豫約地ノ爲費ヤシタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得ス  
第二十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ開墾者ハ直接ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 開墾者本則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ農商務大臣ハ賣拂豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得賣拂豫約ノ目的タル林野ノ產物ヲ拂受ケタル開墾者其ノ產物賣拂ニ關スル規則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ亦同シ(同上)  
前項ノ場合ニ於テハ豫約地ノ爲費シタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得ス(同上)

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ



第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額、一時貸ニ在リテハ其ノ全額金十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

一時貸付又ハ十年ヲ超エサル年期貸付ニシテ其料金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得(三五年令)  
第二十五條(三八年令)

第二十六條 借受人其ノ林野ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ(三八年令)

第二十七條 借受人契約期間滿了ノ時林野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコト能ハサルトキハ大林區署長ハ其ノ請求ニ因リ貸付料ヲ定メテ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第二十八條(四二年令) 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ忘リタルトキハ大林區署長ハ代テ之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ大林區署長其ノ附屬物收去ノ必要ナシト認メタルトキハ借受人カ之ヲ拋棄シタルモノト看做スコトヲ得

第二十九條 借受人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ大林區署長ハ林野ヲ返還セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還付セシム

第三十條 借受人ノ家族、傭人又ハ代理人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ借受人其ノ責ニ任ス

第三十一條 第十三條乃至第十五條、第十九條及第二十條ノ規定ハ林野ノ貸付ニ之ヲ準用ス

第三十二條 林野又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキハ借受人ハ直ニ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第三十三條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ使用ヲ出願セントスル者ハ願書ニ見取圖又ハ實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ(三九年令)

第三十四條 大林區署長必要ト認ムルトキハ使用ノ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三十五條 第十五條、第十九條、第二十條、第二十四條乃至第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ林野ノ使用ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二(三九年令) 本章中大林區署長ニ屬スル職權ハ五箇年以内ノ貸付若ハ使用ニシテ面積一町歩ヲ超エサルモノ又ハ一年以内ノ貸付若ハ使用ニ關シテハ小林區署長之ヲ行フ但シ林道、貯木場、土場、苗圃其ノ他森林附屬地ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六章 交換

第三十六條 國有林野法第十四條ノ規定ニ依リ交換ヲ爲サントスルトキハ大林區署長ハ相手方ト立會フ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 交換地ノ實測面積及價格
- 二 產物ノ種類、材積又ハ數量及價格
- 三 第三者ノ權利ノ有無

第三十七條 大林區署長交換ヲ行ハントスルトキハ意見書ヲ作り之ニ調査書、實測圖及位置圖ヲ添附シテ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ



第三十八條 第二十四條ノ規定ハ交換ニ之ヲ準用ス

第七章 讓與

第三十九條 國有林野法第十五條ノ規定ニ依リ國有林野ノ讓與ヲ出願セントスル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十條 讓與セントスル林野ノ使用ノ方法、始期又ハ繼續期間ヲ指定スル必要アルトキハ之ヲ讓與ノ許可書ニ記載スヘシ

第八章 保管

第四十一條 社寺國有林野法第十七條ノ規定ニ依リ其ノ上地ノ森林ノ保管ヲ出願セントスルトキハ願書ニ實測圖及保護方法書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十二條 社寺其ノ保管林ニ看守人ヲ置キタルトキ又ハ看守人ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名、住所及年齡ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 保管林又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキ

二 採取スヘキ主産物ノ搬出ヲ終ハリタルトキ

三 保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルトキ

第四十四條 保管林ノ主産物ヲ採取スル場合ニ於テハ大林區署長ハ社寺ノ採取スヘキ産物、其ノ伐採ノ方法及搬出期間ヲ指定スヘシ

第四十五條 第十三條及第十四條ノ規定ハ林野ノ保管ニ之ヲ準用ス

第九章 委託

第四十六條 國有林野法第十八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ委託ヲ受ケントスル者ハ願書ニ見取圖、保護方法書及規約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十七條 規約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 林野保護ニ關スル負擔方法

二 産物ノ採取及分配ノ方法

三 違約者、犯則者又ハ犯罪者ニ對スル處分方法

四 其ノ他必要ナル事項

第四十八條 大林區署長又ハ小林區署長必要ト認ムルトキハ産物ノ採取人ニ入林鑑札ヲ交付スヘシ  
(三十九年省令三一號)

第四十九條 受託者其ノ林野ノ管理者ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名、住所ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第五十條 受託者ニ讓與シタル産物ノ材積又ハ數量豫定額ニ達セサルトキト雖受託者ハ其ノ補足ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十一條 第十三條及第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ林野ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十章 部分林

第五十二條 國有林野法第十九條ノ規定ニ依リ部分林ノ設定ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖、造林豫定圖及造林設計書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十三條 造林者其ノ權利ヲ處分セントスルトキハ當事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ



第五十四條 造林者左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル願書ヲ大林區署長ニ差出ス

ヘシ

一 手入問伐

二 防火線又ハ道路ノ廢置又ハ修繕

第五十五條 造林者規約書ヲ作リタルトキハ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

大林區署長必要ト認ムルトキハ造林者ヲシテ規約書ヲ作ラシムルコトヲ得

第五十六條 材積ヲ以テ分收ヲ爲ストキハ大林區署長ハ造林者ノ立會ヲ以テ其ノ分收スヘキ樹木ヲ指

定スヘシ

第五十七條 第十四條、第十九條、第二十四條、第二十五條、第四十二條、第四十三條及第四十九條

ノ規定ハ部分林ニ之ヲ準用ス

第五十八條(三十九年省)

第五十九條(同上)

第六十條 左ノ場合ニ於テハ造林者ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 造林者其ノ氏名、住所ヲ變更シタルトキ

二 造林者其ノ權利ヲ處分シタル事由カ消滅シタルトキ

三 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ヲ生シタルトキ

第六十一條(同上)

第十一章 雜則

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出又ハ作製スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依ルヘ

シ(三十八年省)

第六十二條(同上)

本則ノ規定ニ依リ書類ヲ大林區署長ニ差出サントスルトキハ小林區署長ヲ經

由スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル不要存置國有林野賣拂ニ關スルモノ

二 林道、貯木場、土場、苗圃其ノ他森林附屬地ニシテ大林區署ノ直接管理ニ屬スルモノニ關スルモノ

三 二小林區署以上ノ管轄區域ニ互ル林道ニ關スルモノ

第六十三條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印スヘシ

寺院ノ出願ニ付テハ住職及檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附ス

ヘシ

佛堂ノ出願ニ付テハ受持僧侶及信徒總代願書ニ連署連印スヘシ

第六十四條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス

第六十五條 公用又ハ公益事業ノ爲又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲出願スル場合ニ於テ監督官

應ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)

第六十六條(三十八年省)

本則ニ依ル出願人又ハ契約當事者ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出ス

ヘシ

前項ノ出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ總代ヲ選定シ書類ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀

ヲ添附スヘシ總代ノ選定ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス(四二年省)



第六十七條(三十九年令) 本則ノ規定ニ依リ出願セントスル者國有林野ニ立入り又ハ之ヲ測量スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ申立テ小林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第六十八條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本則施行前ヨリ存スル部分林ニ付テハ造林者及利害關係人ハ本則施行ノ日ヨリ一年以内ニ第五十八條ニ揭ケタル事項ノ登録ヲ大林區署長ニ申請スヘシ

書式(略ス)

○社寺保管林規則

明治三十二年八月二日 勅令第三百六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ社寺保管林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

社寺保管林規則

第一條 社寺上地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
  - 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止
  - 三 有害動物ノ豫防及驅除
  - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
  - 五 稚樹ノ保育
  - 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
  - 七 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行為ヲ爲スコト
- 第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主產物ヲ採取スルコトヲ得
- 根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス
- 第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得
- 第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ
- 前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得
- 一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ
  - 二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ
  - 三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ



四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ  
 前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス  
 第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管  
 理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ從前ノ例ニ依ル  
 第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲  
 スコトヲ得

○國有林野委託規則

明治三十二年八月二日 勅令第三百六十四號

朕國有林野委託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野委託規則

第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
 第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、緣故及其ノ地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム  
 第三條 委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス  
 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得  
 第四條 受託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防  
 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止  
 三 有害動物ノ豫防及驅除  
 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存  
 五 稚樹ノ保育  
 六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト  
 第五條 左ノ委託林野產物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得  
 一 末木、枝條及枯倒木  
 二 手入ノ爲伐採スル樹木  
 三 自家用薪炭材  
 四 土地ノ資質ヲ爲ササル副產物  
 第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得  
 一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ  
 二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ  
 三 委託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ  
 前項ノ規定ニ依リテ委託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス  
 第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠  
 償スルノ責ニ任ス  
 附則



第八條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル  
第九條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其ノ採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲ス  
コトヲ得

○國有林野法ニ依リ編入スル社寺境内地地種目組換取扱方

明治三十四年十一月四日  
内務省訓令第十八號

府 縣 沖繩 除ク

明治三十二年法律第八十五號國有林野法ニ依リ社寺境内ニ編入ヲ爲シタル上地林地種目組換ノ手續ハ  
其ノ應ニ於テ取計フヘシ

○北海道國有未開地處分法 明治四十一年四月十四日  
法律第五十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道國有未開地處分法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法

第一條 北海道ノ國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ  
第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又

ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス

特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ付與ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ  
貸付スルコトヲ得

第五條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價額相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無償貸付 十年

二 有償貸付 十五年

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對  
シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキ  
ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スコトヲ得



第十三條 賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス  
 第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違  
 反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土  
 地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ  
 前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セス

第十五條 左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルモノヲ除クノ外貸付又ハ付與ノ處  
 分ヲ取消スヘシ但シ借地料ハ之ヲ還付セス

一 第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ  
 目的ニ使用セザルトキ

二 第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ著手セス又  
 ハ豫定ノ目的ニ使用セザルトキ

第十六條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシ  
 ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ因リ評定ノ上  
 移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價額ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償ス但  
 シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評定價額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多キト  
 キハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス

前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スヘキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ  
 第十七條 自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂、貸付若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ

於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之  
 ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノハ國ノ所有ニ歸ス

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處  
 分若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレ  
 ハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民  
 有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳  
 ニ登録スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコト  
 ヲ要ス

第二十一條 拓殖上又ハ土地整理上必要アル場合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本  
 法ニ依リ處分スルコトヲ得

第二十二條 賣拂、貸付又ハ付與ノ處分ノ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ  
 權利ハ消滅ス

第二十三條 賣拂ヒ又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命シタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知  
 スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動産ノ表  
 示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス



第二十四條 第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四一年勅一四九號ヲ以テ  
四二年七月一日ヨリ施行)

第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特定地ニ關スル規定ヲ適用ス

舊法ニ依リ賣拂ヒ交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

○北海道國有未開地處分法施行規則 明治四十一年六月十日  
勅令第五百五十號

朕北海道國有未開地處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法施行規則

第一條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ土地ハ之ヲ公示ス但シ一區域五町步未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 土地ノ賣拂又ハ貸付ハ競争ニ付セス但シ行政廳ニ於テ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 土地ノ賣拂又ハ貸付面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前ニ賣拂ヲ受ケタル土地ノ事業ヲ成功シタル者ニ對シテハ其ノ面積ヲ通算セス

一 耕作ニ供スル土地 五百町步

二 牧畜ニ供スル土地 八百町步

三 植樹ニ供スル土地 八百町步

四 特定地 十町步

五 其ノ他ノ目的ニ供スル土地 十町步

會社、組合其ノ他共同シテ事業ヲ經營セムトスル者ニ對シテハ其ノ資産及人員ニ應シ前項面積ノ五倍迄累加スルコトヲ得

第四條 賣拂ヒ又ハ貸付シタル土地ノ事業成功期間ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 十町步未滿 五年

二 三十町步未滿 八年

三 三十町步以上 十年

植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ付テハ前項期間ノ二倍トス

第五條 特定地ヲ設定シタルトキハ之ヲ公示ス

特定地ハ戶主又ハ成年者ニ限り之ヲ貸付シ貸付許可ノ翌月ヨリ六月以内ニ其ノ土地又ハ其ノ附近ニ

移住シ事業成功ニ至ル迄引續キ居住シタルトキハ之ヲ付與ス

前項ノ規定ハ本令施行前貸付シタル土地ニ關シテハ之ヲ適用セス

第六條 耕作、牧畜又ハ植樹ニ供スル土地ヲ賣拂フ場合ニ於テ其ノ價額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得

ス但シ競争ニ付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 耕作ニ供スル土地 一町步ニ付金四圓五十錢

二 牧畜ニ供スル土地 一町步ニ付金三圓

三 植樹ニ供スル土地 一町步ニ付金一圓五十錢



第七條 賣拂フヘキ土地ニ可用立木アルトキハ別ニ其ノ價額ヲ定メ土地ト共ニ之ヲ賣拂フモノトス但シ耕作又ハ牧畜ニ供スル土地ニ在リテハ其ノ材積ノ十分ノ二分ハ之ヲ付與ス  
 土地ノ賣拂處分ニ付取消アリタルトキハ前項但書ニ依ル付與モ亦取消サレタルモノトス  
 第八條 耕作ヲ目的トスル土地ニ在リテハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ十分ノ二以内ヲ防風林、風致林又ハ薪炭用材林ト爲スコトヲ得  
 第九條 土地ノ賣拂又ハ貸付ヲ受クヘキ者ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 附則  
 本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○北海道國有林野及產物處分令 明治四十一年十一月二十七日 勅令第二百八十六號

朕北海道國有林野及產物處分令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有林野及產物處分令

第一條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂ヒ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第二條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ國有林野ヲ賣拂ヒ、貸付シ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得  
 一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ

二 區町村其ノ他公共團體ノ基本財産ニ充ツル爲賣拂フトキ  
 三 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故者ニ賣拂フトキ  
 四 現ニ北海道ニ於テ鑛業又ハ北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル林野ヲ賣拂フトキ  
 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル二十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ  
 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ  
 七 宅地、耕地、牧場、放牧地、植樹地又ハ海産干場ニ供スル爲貸付スルトキ  
 八 北海道廳長官ノ定メタル重要製産品製造業ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ  
 九 木材業附帶ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ  
 十 見積借地料一年金三百圓ヲ超エサル林野ヲ貸付スルトキ  
 第三條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ國有林野ノ產物若ハ土石ヲ賣拂ヒ又ハ無料採取セシムルコトヲ得  
 一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ  
 二 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ  
 三 北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フトキ  
 四 前號ノ場合ニ於テ原料以外ノ產物ヲ併セ處分スルニ非サレハ森林經營上支障アルニ因リ之ヲ同時ニ賣拂フトキ  
 五 施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競争ニ付スルトキハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル場合ニ於テ其ノ森林ノ產物ヲ北海道廳長官ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ



- 六 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築、營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ
- 七 見積價格金六百圓ヲ超エサル產物又ハ土石ヲ賣拂フトキ
- 八 鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ
- 九 河海、沼湖、濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣拂フトキ
- 十 國有林野ノ保護及更新上必要ト認ムル場合ニ於テ制限ヲ付シ地元人民ニ其ノ產物ヲ採取セシムルトキ

第四條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セス又ハ指定ノ期間内ニ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第二百七號ハ之ヲ廢止ス

○北海道國有林野及未開地並其ノ產物賣拂代金延納ノ件

明治四十二年九月十五日  
勅令第二百十八號

朕北海道國有林野及未開地並其ノ產物賣拂代金延納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有林野及未開地並其ノ產物ノ賣拂代金ハ一口千圓以上ナル場合ニ限り有價證券ヲ擔保トシテ

提供セシメ二年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ公共團體ニ限り其ノ擔保ヲ免除スルコトヲ得  
擔保トシテ提供セシムヘキ有價證券ノ種類ハ內務大臣ノ認可ヲ經北海道廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官有財産管理規則

明治二十三年十一月二十四日  
勅令第二百七十五號  
(改正三十四年勅令五十六號)

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ



貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ  
第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若

ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會

ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス(三四年勅 五六號)

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産



第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件

明治三十六年五月二十二日  
勅令第九十六號

朕官有財産管理規則及官有地特別處分規則ノ準用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則及官有地特別處分規則中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ市ニ關スル規定ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ町村ニ關スル規定ハ沖繩縣ノ間切島ニ準用ス

○官有建物等ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件

明治二十六年十二月五日  
勅令第二百二十八號

朕官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○官舍貸渡規則  
明治九年五月十五日(改正一〇年達三七)  
太政官達第五十三號(改七八七號)

院省使廳府縣

明治七年<sup>七</sup>第九十三號同八年<sup>五</sup>第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舍貸渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舍或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納尤元金建坪等取調ノ儀院省【使】ハ大藏省廳府縣ハ内務省ヘ可申出此旨相達候事

但借地料ノ儀ハ明治八年<sup>七</sup>第百十四號布告官有地第二種但書ノ通可相心得事

(別紙)

官舍貸渡規則

第一條 官舍貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ

但獄舍徵役場倉庫定番見張番等並ニ鐵道各驛長各所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ

官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件 官有建物等ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件 官舍貸渡規則



官舎貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舎ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ(一〇年達三七)

第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其應ニ備置修繕費ニ充ツヘシ

第三條 (一〇年達) 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ目今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ

但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

第四條 宿代ハ年ヲ以計算スヘシト雖モ取立方ハ月割タルヘシ

但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ヘシ

第五條 宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遺拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置ヘシ

第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ

第七條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地檢査ノ上差支無之分ハ允許スヘシ

第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト檢査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ

但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

○官有地取扱規則

明治二十三年十一月二十四日 勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納竝訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者

ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復



- シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得
- 第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ
- 第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ
- 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス
- 第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
- 第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
- 第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地特別處分規則

明治二十三年七月二十一日 (改正三九年勅令第三百二十五號)

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則

- 第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得
  - 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ
  - 二 不用ニ屬スル官有地ニシテ其ノ評定價格四百圓以內坪數六百坪未滿ノモノヲ賣渡シ又ハ其ノ貸渡料一箇年四十圓以內貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡ストキ但シ望人二名以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス(三九年勅令第三百二十五號)
  - 三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷溫泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ
  - 四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ
- 第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス
- 第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス
- 第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス



○官有地賣渡貸渡方 明治二十三年十月二十日  
內務省訓令第三十七號

北海道廳 府縣

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其廳ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス  
前項賣渡貸渡ニシテ從來經伺ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願人ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添へ本大臣ニ具申ス可シ

○工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件 明治三十年二月十七日  
勅令第十五號

朕工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

○各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 明治三十五年一月十七日  
勅令第五號

朕各省ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

○不動産ノ登記ノ囑託ニ就キ官吏指定 明治三十五年四月十日  
內務省令第十三號  
(改正 三十七年省令九號三十八年省令三  
一九號四一年省令一九號)

當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左ノ官吏ヲ指定ス

北海道廳長官 樺太廳長官(四一年) 府縣知事 神宮大宮司(三七年) 本省【總務局】會計課長 本省

衛生局長【警察監獄學校幹事】內務省土木出張所長(三八年) 衛生試驗所長【血清藥院長】【痘苗製造

所長】傳染病研究所長 北海道廳支廳長、樺太廳支廳長、島司、郡長(三八年省令一九號)

○相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ

關スル件 明治三十三年十二月六日  
勅令第四百九號

朕相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續人曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財産ハ管理人ヨリ遲滞ナク被相續人ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

官有地賣渡貸渡方 工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件 各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 不動産ノ登記ノ囑託ニ就キ官吏指定 相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件



### 社寺

○社寺取扱概則 明治十一年九月九日（改正一三年達）（一三年太政官六一號達、一二年内務省  
一六年同甲一六號達一）  
九年内務省令一號參看）

府 縣

社寺取扱之儀左之通概則相定候條此旨相達候事

#### 社寺取扱概則

- 第一條 社寺之創建ハ（民有地ニ建）神官仕職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ（寺院ハ本寺）連署戸長與書ヲ以テ願出永續財産ノ用途且其地所建物社寺ノ體（社ハ本殿拜殿）ヲ具フル者ニ限リ允許スルヲ得ヘシ、再興復舊等總テ之ニ準ヌ（一三年省達）  
但別紙書式ニ倣ヒ其都度當省ヘ届出ヘシ
- 第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ聞届毎月末取纏メ當省ヘ届出ヘシ、尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ儀ハ從前之通
- 第三條 邸内社堂並掛所道場引直及寺號公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出永續用途並建物ノ體（堂字ハ方）ヲ具フルモノニ限リ聞届別紙書式ニ倣ヒ毎月末取纏當省ヘ可届出（同上）  
（六尺以上）
- 第四條 前條條ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都度當省ヘ伺出ヘシ  
（別紙書式）略ス



○社寺創立再興復舊等出願ノ節伺出條件 明治十三年十二月十七日  
內務省達乙第五十二號

府 縣

今般第六十一號公達ノ趣有之ニ付テハ自今社寺創立再興復舊等出願有之節ハ從來ノ手續ニヨリ取調尙左ノ條件精査ノ上當省ヘ伺出此旨相達候事

- 一 社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的
- 一 但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月竝次第共
- 一 社殿堂宇諸建物坪數繪圖面竝目論見仕様ノ事
- 一 永續資本ノ財產 動産不動産等ノ細目  
負債ヲ詳記スヘシ 竝發願者 即爾後該社寺一切ノ  
事ニ關係スヘキモノ ノ總人員
- 一 境內地坪數及社寺名受若クハ人民共有名受ノ別

○社寺建設及再建期限 明治十五年十一月七日  
內務省達乙第五十九號

府 縣

各府縣管內神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建セシメ何レモ毎月未取繕メ當省ヘ可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除更ニ届出候儀ト可相心得此旨相達候事但十二年當省乙第三十一號達社寺明細書式中境外遙拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調フヘシ (十九年九月內務省令第一六號)

○社殿堂宇等公賣處分ヲ受ケタルトキ再建届出及猶豫期限

明治二十年十月二十一日  
內務省訓令第四十五號

北海道廳 府縣 (沖繩縣ヲ除ク)

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必用ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二箇年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二箇年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ删除スヘシ

○神社分社遙拜所建設出願方

明治八年一月二十四日  
教部省布達第一號

府 縣

諸神社分社又ハ遙拜所建設出願ノ節ハ向後必ス其本社ノ承諾書相副永續方法ヲモ相認差出候儀ト可心得此旨布達候事

明治九年三月十二日  
教部省達書第八號

府 縣

諸神社分社等建設之儀ニ付往々伺出有之處分社ト遙拜所ノ差異不明瞭向不少不都合候條神殿ヲ建築シ本社ノ分靈ヲ鎮祀致候者ヲ分社トシ拜所ノミヲ設テ遙拜式執行致候者ヲ遙拜所ト爲相心得自今出願之節右區別判然取調建物模樣並地面坪數等ニ至迄詳細繪圖面相添其他昨八年一當省布達第一號之通相心得可伺出此旨相達候事

社寺創立再興復舊等出願ノ節伺出條件 社寺建設及再建期限 社殿堂宇等公賣處分ヲ受ケタルトキ再建届出及猶豫期限 神社分社遙拜所建設出願方



明治十五年九月十三日  
内務省達乙第四十八號

府

縣

明治九年教部省第十六號達廢止候條自今遙拜所願出之節ハ八年同省第壹號布達ニ準スヘキ儀ト可心得  
此旨相達候事

○神社寺院佛堂合併跡地ノ讓與ニ關スル件

明治三十九年八月九日  
勅令第二百二十號

朕神社寺院佛堂合併跡地ノ讓與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神社寺院佛堂ノ合併ニ因リ不用ニ歸シタル境内官有地ハ官有財産管理上必要ノモノヲ除クノ外内務大臣ニ於テ之ヲ其ノ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與スルコトヲ得

○廢合寺院跡地並建物處分規則

明治八年九月七日  
内務省達乙第百十三號

(改正九年達乙)  
府

縣

廢寺院處分之儀ニ付壬申第三百三十四號御達之趣モ有之候處自今廢合寺院跡地並建物處分規則別紙之

通相定候條右規則ニ照準取調可申出此旨相達候事

(別紙)

廢合寺院跡地並建物處分規則

第一節 廢寺 無檀 無住

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノノ別ヲ論セヌ官沒ス

但シ佛像什器處分ハ明治五年第三百三十四號達書ノ通タルヘシ(九年内務達乙七〇號)

一境内地ノ内從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得

カ其他民有ノ確證ナキモノハ都テ官沒スヘシ

一朱黒印地除地田畑山林等ノ内寺院ノ名受地ハ勿論村方百姓並ノ田畑等アリテ寺院ノ名受トナリタル

カ又ハ先住僧侶ノ買得セシモノハ官沒スヘシ

但寺院並先住僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ證跡アルモノト雖モ官沒スヘシ

一人民ヨリ寄附ノ田畑アリテ貢租作徳共該寺ニ於テ處務致シ來レルモノハ即チ寺附ノ地面ニハ官沒ス

ヘシ然シ寄附人ノ子孫再ヒソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ

但寄附セシ次第ニヨリ別段ノ契約アルハ此限リニアラス

第二節 廢寺 有住 無檀

一現住職自己ノ財産ニ係ルモノノ外ハ第一節及ヒ第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節 合寺 無檀 無住

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以建造セシモノノ別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附

スヘシ(九年内務達乙七〇號)



一 境内地ノ内人民ノ名受ニテ賃租ヲ納メ來リシモノハ其者へ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得或ハ開墾ノ確證アルモノハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ(確證ナケレバ)  
但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先住僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確證アレハ立木ノミ合スル所ノ寺院へ下渡スヘシ

一 人民ヨリ寄附ノ地アレハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ  
第四節 合寺 有住 無檀

一 第三節ニ同シ但建物境内地田畑山林等ノ内萬一現住職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確證アレハ其者ノ意ニ任カスヘシ

第五節 合寺 有檀 無住

一 第三節ニ同シ但建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ造營セシモノ及ヒ境内地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納メ來リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院並ニ法類等トノ協議ニ任カスヘシ

### ○私邸内自祭ノ神祠佛堂へ衆庶參拜停止及建物等處分方

明治九年十二月十五日  
教部省達書第三十八號

府 縣

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有之筋ヲ以尙參拜之儀願出候ハハ永續方法並神官僧侶之受持等夫々取調爲申出候上管轄廳見込相立可伺出此旨相達候事

但從前願濟之分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出事

### ○社寺總代人撰定ニ關スル件

明治十四年七月二十一日  
內務省達乙第三十三號

府 縣

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰田畑山林ノ所得ハ勿論賽物所ヲ云其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事(二四年內務省訓八號)

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若ハ戶長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改撰セシムヘシ(同上)

但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ(同上)

### ○社寺總代人ニ關スル心得方

明治二十四年十二月十一日  
內務省訓令訓第一〇六三號

社寺總代人之儀ニ付テハ明治十四年乙第三十三號及ヒ同二十四年五訓令第八號等訓達ノ次第モ有之處該總代人ニ關シ尙左之通心得ヘシ

社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ澹滯セシム

私邸内自祭ノ神祠佛堂へ衆庶參拜停止及建物等處分方 社寺總代人撰定ニ關スル件 社寺總代人ニ關スル心得方 下卷 四一七



ル等ノ弊害アリト見認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得  
社寺總代人ハ其社寺ノ願屆等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財產ヲ安リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス  
右訓令ス

○社寺什物類神官僧侶等恣ニ處分スルヲ禁ス  
明治六年七月十七日  
太政官布告第二百四十九號  
社寺佛共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器竝ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已儀有之候ハハ委詳具狀ヲ以テ教部省へ可申立候此旨布告候事

○社寺持添ノ田畑山林竝寄附金古文書等六年二百四十九號  
布告ニ照準處分方  
明治九年二月二日  
教部省達書第三號

社寺佛共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第二百四十九號公布之趣有之ニ付テハ持添之田畑山林竝寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事  
府 縣

○社寺ノタメ金穀借入等ハ氏子檀家總代ノ連署ヲ要ス  
明治十年五月十六日  
太政官布告第四十三號

神社竝寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所除稅地外建物什器<sup>寶物古文書類等</sup>ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

○社寺金穀借入抵當認可方  
明治十二年七月十四日  
內務省達乙第三十九號

府 縣

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ一應管廳へ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限り認可スヘシ此旨相達候事

但目錄帳へ記載セスト雖トモ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ準スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號達書ノ通心得ヘシ

○官國幣社以下神社竝寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

明治三十六年三月二十六日  
內務省令第二號

官國幣社以下神社竝寺院佛堂境内官有地木竹管理規則  
官國幣社以下神社竝寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

社寺什物類神官僧侶等恣ニ處分スルヲ禁ス 社寺持添ノ田畑山林竝寄附金古文書等六年二百四十九號布告ニ照準處分方 社寺ノタメ金穀借入等ハ氏子檀家總代ノ連署ヲ要ス 社寺金穀借入抵當認可方 官國幣社以下神社竝寺院佛堂境内官有地木竹管理規則



第一條 官國幣社以下神社並寺院佛堂ニ於テ其境内官有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス

第二條 枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 官國幣社本殿並其周圍ノ垣拜殿幣殿神饌所社務所及府縣社以下諸社本殿拜殿並寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得但神社寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニ付テハ左ノ範圍ヲ超ニルコトヲ得ス

一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ハ其一割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其二割以内

前項ニ該當セサル建造物ト雖モ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及神社寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ヲ得ザル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條 林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 前二條ニ該當スルモノト雖モ神社寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ渉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但神社寺院佛堂ニ於

テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ非ス

第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境内地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察官署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條 社寺佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本規則ハ建物アル遙拜所ノ境内官有地木竹ノ管理ニ之ヲ準用ス但第三條ニ依ル伐採ハ遙拜殿ノ造修用材ニ限ル

第十四條 明治十五年八月内務省番外示達社寺境内伐木取扱概則ハ之ヲ廢止ス

第十五條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○神社寺院佛堂境内地使用取締規則

明治三十六年十一月二十日 (改正三十九年省一五號)  
内務省令第十二號 (改正四〇年省八號)

神社寺院佛堂境内地使用取締規則左ノ通相定ム



神社寺院佛堂境内地使用取締規則

第一條 神社寺院佛堂境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其神社寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一 一時限リノ使用

二 參詣人休息所等其使用一箇年以内ニ止マルモノ(四〇年省八號)

三 公益ノ爲ニスル使用

第二條 前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ神社寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

一 事由

一 名稱

一 構造、形狀、寸尺等ノ概要但シ必要ニ應シ圖面ヲ添付スヘシ

一 文字圖畫ヲ記スルモノハ其文字圖畫

一 期限

一 使用料

一 坪數、位置但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添付スヘシ

前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ同シ

第三條(三九年省五號)

第四條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 制規ノ手續ヲ經サルトキ

一 期限ヲ經過シ又ハ許可ヲ取消シタルトキ

一 神社寺院佛堂ノ爲必要ナリト認めタルトキ

第五條 本令ニ依ル許可ハ之ヲ取消スヨドヲ得

第六條 本令ハ建物アル遙拜所ノ境内地使用ニ付テモ之ヲ準用ス

第七條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

○民有境内地使用及管理方明治二十八年四月六日 内務省訓令第二四〇號

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シテ取扱フヘシ  
右訓令ス

○神社、寺院、佛堂ニ於ケル參拜料觀覽料徴收並寄附金及負債募集

取締ノ件明治三十一年七月七日 (改正三三年省三八號) 内務省令第六號

第一條 神社寺院及ヒ佛堂ハ任意ノ賽物ノ外參拜者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ參拜セシムル爲メ特ニ料金ヲ徴收スルコトヲ得ス

第二條 神社寺院及ヒ佛堂ニシテ其ノ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徴收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

民有境内地使用及管理方 神社、寺院、佛堂ニ於ケル參拜料觀覽料徴收並寄附金及負債募集取締ノ件



第三條(三年省)

神社、寺院、祠宇、佛堂其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附金又ハ負債ヲ募集セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項募集ノ區域カ二以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條(同上) 神社、寺院、祠宇、佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲メ寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ

第五條(同上) 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出スヘシ

一 募集ノ目的

二 募集ノ方法

三 募集ノ金額

四 募集ノ區域

五 募集ノ期間

六 前各號ニ掲ケルモノノ外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法

第六條(同上) 前條各號ニ掲ケル事項ヲ變更セムトスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第七條(同上) 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシメムトスルトキハ其住所氏名職業年齢ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條(同上) 第一條乃至第四條第六條及第七條ニ違背シタルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

附則

第十條(同上) 本令實施前募集ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

○神佛ノ參拜其ノ他ノ代理、周旋行爲取締ノ件 明治三十八年十二月二十日 內務省令第二十二號

神佛ノ參拜其ノ他ノ代理、周旋行爲取締ノ件左ノ通之ヲ定ム

第一條 神佛ノ參拜若ハ神樂、祈禱、禁厭ノ請求若ハ神符守札其ノ他ノ物品ノ請受ニ關スル代理又ハ周旋ヲ爲ス行爲ニシテ財物ヲ受ケ又ハ受ケントシ因テ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長

官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

禁止及制限ノ效力ハ全國ニ及フ

第二條 前條ノ禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者及情ヲ知テ之ヲ幫助シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○官國幣社並社寺取扱方委任項目 明治十八年五月二十日 內務省達甲第十六號

府 縣

一 官國幣社社入金遺拂並豫備貯積金處分ノ事

一同經費ヲ以テ常用器用品新調修繕ノ事

神佛ノ參拜其ノ他ノ代理、周旋行爲取締ノ件 官國幣社並社寺取扱方委任項目



- 一同不用ノ建物古材賣却ノ事
- 一同社營建物改造修繕ノ事
- 一同寄附物品ノ事
- 一同神官派出出京養痾歸省ノ事
- 一社事廢合跡建物處分ノ事
- 一同什物祠堂金及持添田畑山林處分ノ事
- 但寶物古文書ハ此限ニアラス
- 一同境内官有地ノ樹木伐採處分ノ事
- 一同境内民有地へ紀念碑建設處分ノ事
- 右件々委任候條府縣限リ致處分其都度可届出此旨相達候事

○社寺菊御紋使用ニ關スル件

明治二年八月二十五日  
太政官布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂等寺ハ泉涌寺般舟院等之外ハ一切被差止候旨被仰出候事  
但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

【開拓使】

明治七年四月二日  
太政官番外達  
京都府 大阪府

各通

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 兵庫縣   | 埼玉縣   | 【足柄縣】 |
| 千葉縣   | 【新潟縣】 | 栃木縣   |
| 奈良縣   | 堺縣    | 愛知縣   |
| 滋賀縣   | 島根縣   | 和歌山縣  |
| 【小倉縣】 | 宮崎縣   | 鹿兒島縣  |

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提燈ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社へ可相達事

明治十二年四月二十二日  
太政官達第二十號

國幣社所在【使】府縣

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内國幣社へ可相達事

明治十二年五月二十二日  
太政官達第二十三號

【使】府縣

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存シ置苦シカラス候此旨相達候事

○官國幣社職制

明治三十五年二月八日  
勅令第二十七號



朕官國幣社職制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社職制

第一條 官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司 一人

權宮司 一人但シ官幣大社熱田神宮及官幣大社出雲大社ニ限ル

禰宜 一人

主典

宮掌

但シ官幣大社熱田神宮ニ限ル

主典及宮掌ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 宮司ハ内務大臣及地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ國家ノ宗祀ニ奉仕シ祭儀ヲ司トリ庶務ヲ管理ス

第三條 權宮司ハ宮司ヲ輔佐シ祭儀及庶務ニ從事ス

第四條 禰宜ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第五條 主典及宮掌ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第六條 宮司事故アルトキハ權宮司ヲ置ケル神社ニ在リテハ權宮司之ヲ代理シ其ノ他ノ神社ニ在リテハ禰宜之ヲ代理ス

第七條 宮司及權宮司ハ奏任待遇トシ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ禰宜、主典及宮掌ハ

判任待遇トシ地方長官之ヲ命ス

第八條 官國幣社神職ニハ俸給ヲ支終ス但シ宮司及權宮司ニ在リテハ内務大臣、禰宜、主典及宮掌ニ在

リテハ地方長官ニ於テ名譽職ト爲スコトヲ妨ケス

第九條 官國幣社神職ノ服務、俸給及旅費ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條 本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及

海軍大臣之ヲ行フ

第十一條 本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ但シ第七條ノ奏

請ニ關シテハ内務大臣ヲ經由スヘシ

附則

第十二條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本令施行ノ際現ニ官國幣社神職タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ニ命セラレタルモノト看做ス

○官國幣社神職奉務規則 明治二十四年八月十四日 內務省訓令第十七號

北海道廳 府縣

官國幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官國幣社神職奉務規則

第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ

第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス



- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得  
但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第五條 人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ
- 第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ  
官國幣社ト雖トモ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ
- 第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラ  
シムルヲ要ス

○官國幣社處務規則 明治三十六年十月二十六日  
內務省訓令第十一號

北海道廳 府縣

官國幣社處務規則左ノ通相定ム

官國幣社處務規則

- 第一條 社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ指名シ之ヲ處理セシムヘシ  
社務繁多ナル神社ニ在テハ分課ヲ設クヘシ此場合ニ於テ各課ノ關係等處務上必要ナル細則ハ地方長  
官ノ認可ヲ得テ宮司之ヲ定ム
- 第二條 社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込取調ヘ回議ニ付シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス
- 第三條 職員出勤ノ節ハ出勤簿ニ捺印スヘシ

疾病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ其事由ヲ具シ宮司ヘ届出ヘシ  
病氣引籠五日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四條 忌服ヲ受ケタルトキハ判任待遇以上ノ職員ニ在テハ地方長官及宮司ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ届  
出ヘシ

除服出仕ハ判任待遇以上ノ職員ニ付テハ地方長官其他ニ付テハ宮司之ヲ命スヘシ  
職員死亡セルトキ亦第一項ニ同シ

第五條 宮司ノ職印及會計主任ノ印鑑ハ本省及地方廳ヘ届出置クヘシ

第六條 重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重保管スヘシ

第七條 神殿倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但宮司ニ於テ自ラ保管スルモノハ此限ニ在  
ラス

第八條 社務所ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

祭神記

由緒記

官私祭書類

神社明細圖書

附攝末社明細圖書

不動産臺帳(但資金臺帳ニ掲  
ケル物ヲ除ク)

附立木圖書ノ類

寶物及貴重書畫什器類目錄



藏書目錄  
 祭器具明細帳  
 神社所有物帳  
 契約書類綴  
 法規指令類綴  
 會計諸帳簿  
 社務回議綴  
 社務日記宿直日記類  
 一社職員錄同履歷書綴  
神符大麻守札等員數(撰造)調帳  
 前項各號ノ一ニ該當セサルモノト雖モ凡テ後來ノ照査トナリ又ハ參考トナルヘキ圖書書類ハ適當ニ類別保存スヘシ

第九條 必要ニ應シ前條以外ノ簿冊又ハ補助簿等ヲ調製シ物件ノ所在、出納其他各般ノ社務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條 凡テ簿冊ハ目安ヲ付シ索引ニ便ナラシムヘシ

第十一條 宿直員ハ可成二名以上ヲ以テ之ニ充ツヘシ  
 宿直員一名ハ必ス主典以上ノ職員タルコトヲ要ス  
 宿直員ハ時々境内ヲ巡視シ取締ニ從事スヘシ  
 事變アルトキハ直チニ之ヲ宮司ニ急報セシメ若シ其指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ臨機ノ處置ヲ行ヒ其

旨直チニ宮司ヘ急報スヘシ

第十二條 神社ニ風火災盜難等アルトキハ直チニ宮司ヨリ地方長官ヘ報告スヘシ

第十三條 宮司交替ノ節ハ一社仕來竝ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細廉書ヲ以テ引繼クヘシ  
 一切ノ簿冊ハ目錄相添之ヲ引繼クヘシ  
 土地建物金品證書證券其他一切ノ物件ハ目錄相添簿冊ニ對照シ之ヲ引繼クヘシ  
 引繼ニハ地方廳官吏立會フヘシ

第十四條 前條ノ引繼終リタルトキハ新舊宮司連署授受ノ證書ヲ作り立會官吏之ニ檢印スヘシ  
 引繼ノ終リハ地方長官ヨリ直チニ内務大臣ヘ報告スヘシ若シ事故アルトキハ併テ之ヲ報告スヘシ

第十五條 舊任宮司死亡シタルトキハ新任宮司ヘノ引繼ハ禰宜(禰宜司ヲ置ケル神社ニ在テハ禰宜司)ニ於テ之ヲ行フヘシ未  
 タ新ニ宮司ノ任命ナキトキ又ハ新任宮司著任以前引繼ヲ行フトキハ舊任宮司ハ禰宜(禰宜司ヲ置ケル神社ニ在テハ禰宜司)  
 ニ對シ引繼ヲ行フヘシ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル禰宜(權宮司)ハ新任宮司著任ヲ待チ更ラニ新任宮司ヘ引繼クヘシ  
 本條ノ引繼ハ總テ前二條ニ準シ之ヲ行フモノトス但前項ノ場合ニハ地方廳官吏ノ立會ヲ要セス其終  
 了ハ(事故アルトキハ事故共)宮司、禰宜(權宮司)連署地方長官ヘ届出ツヘシ

第十六條 本則ニ定ムルモノノ外地方長官ニ於テ官國幣社處務上必要ナル規則ヲ設クヘシ

第十七條 明治十三年第五號通達神官事務取扱方明治十一年三月十四日內務省番外達宿直人員ノ件明  
 治八年十一月七日教部省甲第十四號達官國幣社社務受渡成規其他本則ニ抵觸スル從前ノ制規ハ之ヲ  
 廢止ス但明治十三年第五號通達神官事務取扱方第六條但書ノ規定ハ明治三十七年三月三十一日迄其  
 效力ヲ有ス



○官國幣社社務所名稱

明治七年二月二日  
教部省達書中第一號

官國幣社宮司

社務取扱所稱呼各社異稱候趣今後一般某神社社務所ト相唱可申此旨爲心得相達候事

○官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件

明治三十五年二月十二日  
內務省令第一號

官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 主典ノ定員ハ一社ニ付二人以内トス

第二條 主典現在ノ定員一人ノ神社ニ於テ二人ニ増員セントスルトキハ地方長官ハ理由ヲ具シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 特別ノ事由アル神社ニ付テハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ第一條ノ定員外ニ主典ヲ増置スルコトヲ得

第四條 主典ノ現員三人以上ノ神社ニ在テハ當分ノ內現員ノ儘存置スルコトヲ得但退職其ノ他ノ事故ニ依リ減員スルトキハ定員ニ復スルマテ補命スルコトヲ得ス

第五條 熱田神宮宮掌ノ定員ハ五人以内トス

第六條 雇員ハ宮司之ヲ命免ス

- 第七條 禰宜、主典、宮掌ノ補免及死亡ハ其ノ時時地方長官ヨリ內務大臣ニ報告スヘシ
- 第八條 第二條及第四條ノ事項ニ關シ本規則施行前內務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本規則施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ
- 第九條 本規則ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○官國幣社神職俸給規則

明治四十一年二月四日  
內務省令第二號

明治三十五年內務省令第二號官國幣社神職俸給規則左ノ通改正ス

官國幣社神職俸給規則

第一條 官國幣社宮司、權宮司ノ俸給ハ一號表ニ依リ禰宜、主典、宮掌ノ俸給ハ二號表ニ依ル

第二條 官國幣社職員ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限り宮司、權宮司ニ在リテハ百圓以内禰宜、主典、宮掌ニ在リテハ五十圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條 名譽職タル官國幣社神職ニハ報酬ヲ支給スルコトヲ得但宮司、權宮司ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 俸給支給方ハ宮司、權宮司ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ禰宜、主典、宮掌ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル

第五條 報酬ヲ月額又ハ年額ニテ支給スル場合亦前項ニ同シ

其ノ都度地方長官ヨリ內務大臣ニ報告スヘシ



第六條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク  
附則

第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一號表

職名	年俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸
宮司	六百圓	五百圓	四百五十圓	四百圓	三百五十圓	三百圓	二百五十圓	二百圓	一百五十圓
權宮司	五百圓	四百五十圓	四百圓	三百五十圓	三百圓	二百五十圓	二百圓	一百五十圓	一百圓

二號表

職名	年俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
禰宜	二百八十圓	二百四十圓	二百圓	百七十圓	百四十五圓	百二十圓	百圓	圓
主典	二百圓	百七十圓	百四十圓	百二十圓	百圓	八十五圓	七十五圓	圓
宮掌	百五十圓	百二十圓	百圓	八十五圓	七十五圓	七十圓	六十五圓	圓

○官國幣社及神部署神職任用令  
明治三十五年二月八日(改正三六年勅八六號)  
勅令第二十八號(四二年勅一八二號)

朕官國幣社及神部署神職任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社及神部署神職任用令

- 第一條 奏任待遇ノ神職ハ高等試驗合格ノ者、判任待遇ノ神職ハ尋常試驗又ハ高等試驗合格ノ者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
- 第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ神職試驗ヲ受クルコトヲ得
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者(四二年勅一八二號)
  - 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
  - 三 禁治産者、準禁治産者
  - 四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者
- 第三條 高等試驗ハ高等試驗委員之ヲ施行シ尋常試驗ハ尋常試驗委員之ヲ施行ス
- 高等試驗委員ハ主務大臣之ヲ選任シ尋常試驗委員ハ主務省ニ於テ行フ試驗ニ付テハ主務大臣其ノ他ニ付テハ地方長官之ヲ選任ス
- 第四條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス
- 第五條 試驗期日及場所ハ豫メ官報、公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第六條 試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ
  - 一 祭式
  - 二 倫理



- 三 國文 作文ハ高等試験ニ在リテハ宣命體公文體  
尋常試験ニ在リテハ祝詞體公文體
- 四 歴史
- 五 法制 高等試験ニ在リテハ現行神社法令及憲法  
尋常試験ニ在リテハ現行神社法令
- 六 算術
- 第七條 試験ニ關スル細則ハ試験委員ニ於テ之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ但シ地方廳ニ於テ行フ尋常試験ニ關スル細則ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第八條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得
  - 一 其ノ神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世中ニ於テ之ヲ輔佐シ功績顯著ナル者若ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 二 高等官又ハ五年以上官務ニ従事シ判任官二等以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 三 十年以上神職(府縣社以下神職ニシテ)ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神部署神部補ノ職ニ在ル者
  - 四 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者
  - 五 神宮皇學館本科卒業ノ者
  - 六 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
- 第九條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ銓衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得
  - 一 五年以上官務ニ従事シ判任官以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 二 現ニ神宮宮堂以上ノ職ニ在ル者

- 三 前條第四號若ハ第五號ニ掲ケタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノ者
- 四 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階三等司業以上ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
- 五 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
- 六 五年以上神職ト爲リ現ニ社司ノ職ニ在ル者
- 七 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者(四二年勅一八二號)
- 第十條 三年以上官國幣社又ハ神部署ニ於テ本令ニ依リ任用セラルヘキ神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試験ヲ要セス前職同等若ハ其ノ以下ノ神職ニ任用スルコトヲ得
- 奏任待遇ノ神職ニ在リテハ各職同等ト看做シ判任待遇ノ神職ニ在リテハ禰宜及神部補ヲ以テ同等ト看做ス
- 第十一條 五年以上雇員トシテ神部署ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ銓衡ヲ經テ神部補ニ任用スルコトヲ得
- 五年以上雇員トシテ官國幣社ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ銓衡ヲ經テ主典又ハ宮掌ニ任用スルコトヲ得
- 前項ニ依リ主典又ハ宮掌ニ任用セラレ三年以上奉職シタル者ハ尋常試験委員ノ銓衡ヲ經テ禰宜ニ任用スルコトヲ得
- 第十二條 神職試験ヲ受クル資格ナキ者ニハ前四條ノ規定ヲ適用セス
- 第十三條 本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣



之ヲ行ヒ其ノ他ニ關シテハ内務大臣之ヲ行フ

第十三條ノ二(三六勅) (八六號) 本令中地方長官ニ屬スル職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ

附則

第十四條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 神部署參務員及官幣小社波上宮ノ神職ニハ本令ノ規定ヲ適用セス

○府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

明治二十七年二月二十七日 勅令第二十二號

(改正三三三勅三九八號)

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

社司 一人

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子(氏子ナキト) 總代之ヲ議定シ臺灣總督北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受

ク可シ(三三三勅)

第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子(氏子ナキト) 總代之ヲ議定シ臺灣總督北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

(同上)

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 臺灣總督北海道廳長官府縣知事ハ氏子(氏子ナキト) 總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ推薦セシ

メ其ノ中ヨリ之ヲ補ス但シ氏子(信徒) 總代ニ於テ候補者ヲ推薦セサルカ若ハ推薦再回ニ及フモ候補

者其ノ任ニ適セスト認メタルトキハ臺灣總督北海道廳長官府縣知事ニ於テ適任者ヲ舉ケテ其ノ職ニ

補スヘシ(三三三勅三九八號)

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ定ム(三三三勅)

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ定

ム(同上)

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○府縣郷村社神官奉務規則

明治二十四年七月六日 内務省訓令第十二號

北海道廳 府縣

府縣郷村社神官奉務規則

府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件 府縣郷村社神官奉務規則



第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ  
第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス  
第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○府社縣社以下神社神職任用規則

明治三十五年二月十八日(改正 四二年令 一六號)

府社縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

府社縣社以下神社神職任用規則

第一條 社司社掌試験ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職試験ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職及神職タリシ者ハ試験ヲ要セス直ニ社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者(四二年令 一六號)

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 禁治產者、準禁治產者

四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 地方廳ニ社司社掌試験委員長一名及社司社掌試験委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試験ヲ行ハシム

第四條 社司社掌試験委員長及社司社掌試験委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ

第五條 社司社掌試験委員ハ此規則ニ依リ試験ヲ施行シ試験委員長ヨリ其ノ成績ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申スヘシ

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ

第七條 試験ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ試験期日及場所等ハ官報公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第八條 社司社掌ノ試験科目ハ左ノ如シ

祭式

倫理

國文



作文

祝詞體  
公文體

法制 現行神社法令

第九條 試驗問題ハ社司社掌試驗委員之ヲ定メ社司社掌試驗委員長ヨリ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 此規則施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ掲クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一 官國幣社及神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ掲クル者

二 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階司業(社司ニ在テハ六等以上 社掌ニ在テハ八等以上)ヲ附與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタル者

三 判任待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞作文祭式ヲ修メタル者

四 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者(四十二年省一六號)

第十二條 神社ニ神職ノ闕員アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ十五日以内ニ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ハ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ

第十四條 北海道廳長官府縣知事ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ第十二條ノ規定ニ依リ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

附則

第十五條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ施行ス

第十六條 本令施行前ヨリ現ニ府社縣社以下神社ノ神職タル者ハ本令ノ施行ニ依リ神職タルノ資格ヲ失フコトナシ

第十七條 明治二十八年内務省令第十號同年内務省訓第六五六號及同年内務省訓令第十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○官國幣社御靈代伺ヲ經ス拜見ヲ許サス

明治七年九月二十九日  
教部省達書甲第十七號

官國幣社神官

各社御靈代ハ該社長官タリトモ當省ヘ不經伺拜見ノ儀不相成候此旨相達候事

○官國幣社並府縣社制札樣式

明治六年三月二十二日  
教部省達第十三號

(改正一〇年内務省達乙第六號、  
一一年内務省達乙第六號)

府 縣

今般官國幣社並府縣社制札別紙ノ通相定候條【官國幣社之分ハ當省省名ニ管轄地方官添書致シ府縣社之分ハ管轄地方官之名ニ而】一社社入ヲ以テ建設可致此旨相達候事

(別紙)

官國幣社並府縣社制札

官國幣社御靈代伺ヲ經ス拜見ヲ許サス 官國幣社並府縣社制札樣式



寸法適宜

定

- 一 車馬ヲ乗入ル事
  - 一 魚鳥ヲ捕ル事
  - 一 竹内ヲ伐ル事
- 右條條於境內令禁止者也
- 年 號 月

某 府 縣

府縣社札文言同上

○官幣諸社祭典地方官ニ於テ執行

明治六年二月十五日 太政官布告第五十三號

從前官幣諸社官祭ノ儀式部寮官員參向執行候處今後伊勢神宮ヲ除クノ外總テ地方官ニ於テ執行可致事 但巨細ノ儀ハ追テ式部寮ヨリ可相達事

○官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ニ地方長次官及代理參向方

明治十六年二月二十六日 (改正一七一年達) 內務省達乙第八號

府 縣

官國幣社祈年祭新嘗祭例祭之義ハ神社祭式之通地方長官又ハ次官參向可致筈ニ付可成の事務繰合セ參向可致尤遠隔ノ地等不得已支障有之代理參向ノ節ハ府縣官並郡區長ニ限リ候義ト可心得此旨相達候事

○神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節坐禮立禮著服區別

明治八年十二月二十日 式部寮布達

府 縣

伊勢神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節奉仕並ニ拜禮ノ輩殿上ノ式ハ祭服坐禮庭上ノ式ハ大禮服著用立禮ノ事

但神官ハ明治七年正院御達第三十八號ニ依リ坐禮立禮共祭服ヲ用ユヘキ事

右ノ通被定候條來明治九年一月ヨリ執行可致且ツ管内ニ官國幣社等有之向ハ其旨神官へ可被相達此段及布達候也

○神社祭式行事作法 明治四十年六月二十九日 內務省告示第七十六號

神社祭式行事作法ヲ定ムルコト左ノ如シ  
神社祭式行事作法

第一編 行事

官幣諸社祭典地方官ニ於テ執行 官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ニ地方長次官及代理參向方  
神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節坐禮立禮著服區別 神社祭式行事作法



一 開扉及閉扉

開扉 先ッ所役御鑰ヲ捧持シテ齋主ノ座側ニ就キ之ヲ進メテ復座、齋主之ヲ受ケテ昇殿（此間奏樂）、  
 進ミテ御鑰ヲ解キ御鑰ヲ案上（案ハ豫メ御扉ノ側ニ置キ再ヒ進ミテ御鑰ヲ除キ同案上ニ置キ更ニ進ミテ御  
 扉ヲ開ク此間奏樂）次ニ神前ニテ再拜拍手ニ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）御鑰ヲ鎖シ御鑰ヲ捧持シテ  
 閉扉 先ッ齋主神前ニ進ミ（此間奏樂）再拜拍手ニ次ニ御扉ヲ閉チ（此間奏樂）御鑰ヲ鎖シ御鑰ヲ捧持シテ  
 下殿復座（此間奏樂）先ッ齋主ノ座側ニ就キ御鑰ヲ受ケテ復座  
 ○二人齋主副齋主ノ場合左ノ如シ

開扉 齋主御鑰ヲ捧持シテ起座スル時副齋主共ニ起座シテ齋主ハ神前ノ左側ヨリ副齋主ハ右側ヨリ並  
 ヒ進ミテ昇殿、先ッ齋主進ミテ御鑰ヲ解キ御鑰ヲ案上（案ハ豫メ御扉ノ側ニ置キ再ヒ進ミテ御鑰ヲ除キ同案上ニ置キ更ニ進ミテ御  
 鑰ヲ除キ各之ヲ案上ニ置キ再ヒ進ミテ御扉ヲ開ク次ニ齋主ハ神前ニテ再拜拍手ニ此間奏樂）再拜拍手ニ  
 ハ側ニ候シ副齋主ハ拜殿（又ハ幄舎）ニ著ク  
 閉扉 齋主ハ副齋主ノ進ミタル時神前ニテ再拜拍手ニ（此間奏樂）二人左右ヨリ御扉ヲ閉チ御鑰ヲ鎖シ  
 齋主御鑰ヲ捧持シ齋主副齋主共ニ下殿復座  
 其ノ他ノ行事ハ總ヘテ一人開閉扉ノ時ノ例ニ準ス

二 神饌獻撤

獻饌 先ッ後取簀薦ヲ鋪キ饌案ヲ設ケテ復座次ニ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ  
 斜メニ相對シテ分候ス次ニ膳部（此間奏樂）神饌ヲ手長ニ傳ヘ手長次第二之ヲ陪膳ニ傳フ陪膳之ヲ案上ニ  
 奠ス（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座  
 撤饌 先ッ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ斜メニ相對シテ分候ス次ニ陪膳神饌ヲ

撤シテ手長ニ傳ヘ手長次第二之ヲ膳部（此間奏樂）神饌ヲ手長ニ傳フ（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座次ニ後取簀薦及簀  
 薦ヲ撤ス

祭場ノ都合ニ依リテハ手長一方ニ並列シテ獻撤シ又ハ各自ニ捧持シテ獻撤スルコトアルヘシ

三 御幣物獻撤

獻幣 先ッ後取簀薦ヲ鋪キ幣案ヲ設ケテ復座次ニ屬御幣物（此間奏樂）ヲ辛櫃ヨリ出シ捧持シテ飯案（此間奏樂）ノ  
 ノ上ニ置キ側ニ候ス次ニ齋主御幣物ヲ捧持シテ神前ノ案上ニ奉奠シ再拜拍手ニ畢リテ本所ニ復ス屬  
 拜殿（又ハ幄舎）ニ著ク  
 撤幣 其ノ儀撤饌ニ同シ

四 祝詞奏上

地方長官祝詞奏上 先ッ後取軾ヲ所定ノ座ニ鋪キテ復座次ニ屬祝詞ヲ捧持シ長官ノ座側ニ就キテ之ヲ  
 進ム長官受ケテ笏ニ持チ添フ屬復座次ニ長官祝詞座ニ著キ再拜祝詞ヲ懷中シ笏ヲ置キテ拍手ニ祝詞  
 ヲ取り出シ左側ニテ徐ニ開キ之ヲ押シ合セテ一揖シ目通ニ捧ケテ奏上ス（此間奏樂）畢リテ又押シ合セテ  
 一揖シ左側ニテ徐ニ卷キ納メ懷中シテ拍手ニ笏ヲ把リ祝詞ヲ持チ添ヘテ再拜畢リテ復座次ニ屬長官  
 ノ座側ニ就キ祝詞ヲ受ケテ復座次ニ後取軾ヲ撤ス  
 齋主祝詞奏上 其ノ儀地方長官祝詞奏上ニ同シ

五 玉串奉奠

地方長官（又ハ次官）玉串奉奠 先ッ後取簀薦ヲ鋪キ玉串案ヲ設ケ軾ヲ鋪キテ復座次ニ屬玉串ヲ執リ長  
 官（又ハ次官）ノ座側ニ就キテ之ヲ進ム長官（又ハ次官）受ケテ案上ニ奠シ（玉串ハ表ヲ上ニシ本ヲ神前ニ向ク）拜座ニ著キテ  
 再拜拍手ニ畢リテ復座



齋主玉串奉奠 其ノ儀地方長官(又ハ次官)玉串奉奠ニ同シ  
諸員拜禮畢リタル時ハ後取軾、玉串案及篋薦ヲ撤ス

六 修祓

先ツ所役案前儀メ祓所ニ寶篋及案ヲ舖ニ進ミ祓詞ヲ讀ミ祝詞奏上ノ儀ニ準ス畢リテ大麻ヲ執リテ祓ヲ受クヘキモノノ前ニ進ミ之ヲ祓ヒ祓ヲ受クル者ハ平伏畢リテ大麻ヲ案上ニ置キテ復座

七 大祓切麻

先ツ所役案前ニ進ミ切麻ノ三方儀メ案上ヲ捧持シテ參列者ノ前ニ据ウ次ニ參列者各自ニ切麻ヲ執リテ祓フ畢リテ所役三方ヲ案上ニ置キテ復座

第二編 作法

上

一 座法

兩足ノ拇指ヲ重ネ少シク膝ヲ開キ左右ノ手先ヲ腰前ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルヲイフ

二 立法

兩足ノ踵ヲ接ケ少シク爪先ヲ開キ左右ノ手先ヲ下腹ノ邊ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルヲイフ

三 座揖

座シタルママ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルヲイフ

四 立揖

立チタルママ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルヲイフ

○揖ニ深揖、小揖ノ別アリ腰ヲ折ルコトノ深淺ニ依ル揖ハ座ノ起著、列ノ離就、階段ノ昇降、殿舎及

神門ノ出入、物品ノ授受、尊前ノ進退、行事ノ前後、沓ノ著脱等ニ行フ所作ナリ

神饌獻撤、祝詞奏上ノ前後及御鑰ヲ捧持セル時等ニアリテハ正笏セサルコトアルヘシ

五 起拜

右膝ヨリ立チ左足ヲ進メ兩足ヲ踏ミ整ヘテ體ヲ正シ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ左膝伏セ尋キテ右膝ヲ伏セテ俛伏スルヲイフ

六 居拜

座シタルママ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ正座シテ俛伏スルヲイフ

七 立拜

立チタルママ兩足ヲ踏ミ整ヘ體ヲ正シテ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ腰ヲ屈折スルヲイフ

八 拍手

兩手ヲ合セ靜ニ左右ニ開キテ拍チ合スルヲイフ座セル時ハ置笏シ立タル時ハ懷笏シテ行フモノトス

九 起座

先ツ兩足ヲ爪立テ次ニ右膝ヲ起シテ立チナカラ左足ヲ進メテ右足ニ踏ミ整ヘ或ハ右足ヲ引キテ左足ニ踏ミ整フルヲイフ

進ム起座ハ左足ヲ進ムル方ニ依リ退ク起座ハ右足ヲ引ク方ニ依ルモノトス  
席ニ上下ノ別アル時ハ下座ノ膝ヨリ起スモノトス

十 著座

先ツ左膝ヲ突キ次ニ右膝ヲ突キ整ヘテ座スルヲイフ  
進ム著座ハ左膝ヲ前方ニ突キテ右膝ヲ突キ整ヘ退ク著座ハ左足ヲ引キテ膝ヲ突キ右膝ヲ突キ整フルモ



ノトス

座前ヨリ著座スル時ハ先ツ左膝ヲ突キ回轉シテ座スルモノトス  
座後ヨリ著座スル時ハ先ツ左膝ヲ突キ膝行シテ座スルモノトス  
席ニ上下ノ別アル時ハ總ヘテ上座ノ膝ヨリ突クモノトス

十一 進退

進ム時ハ左足ヨリシ退ク時ハ右足ヨリス  
席ニ上下ノ別アル時ハ進ム時ハ下座ノ足ヨリシ退ク時ハ上座ノ足ヨリス

十二 膝行

膝ニテ進ムヲイフ先ツ跪キテ左膝ヲ進メ又左膝ヲ進メテ右膝ヲ突キ整フルモノトス  
席ニ上下ノ別アル時ハ下座ノ膝ヨリス

十三 膝退

膝行ノ反對ニシテ右左右ト退クヲイフ  
席ニ上下ノ別アル時ハ上座ノ膝ヨリス

○膝行膝退ハ尊前ノ進退、神饌獻撤ノ時等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三步トス

十四 平伏

正笏シテ背ヲ平ニ俛伏スルヲイフ開閉扉、祝詞奏上、渡御、御幣物通過、受祝等ノ時ニ行フ所作ナリ

十五 跪居

兩膝ヲ突キ爪先ヲ立テ踵ノ上ニ臀ヲ置クヲイフ殿上ニテ應對、授受及薦、案、軾等ヲ鋪設スル時ニ行フ所作ナリ

十六 蹲踞

兩膝ヲ折リ蹲マルヲイフ神前ニ近キ所ヲ横キル時又庭上ニテ殿上ノ跪ト居同シキ時等ニ行フ所作ナリ

十七 起立

兩足ヲ踏ミ整ヘテ立ツヲイフ立禮ニテ應對、授受等ノ時ニ行フ所作ナリ

十八 磬折

立チタルママ正笏シテ腰ヲ折ルヲイフ座禮ノ平伏ト同シキ時ニ行フ所作ナリ

十九 屈行

腰ヲ折リテ歩行スルヲイフ立禮ニテ神前ヲ横キル時等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三步トス

二十 逆行

右足ヨリ右左右ト後歩スルヲイフ尊前ヲ退ク時ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三步トス  
席ニ上下ノ別アル時ハ上座ノ足ヨリス

二十一 持笏

右手ニテ笏ノ下方ヲ拇指ト小指トヲ内ニシテ右方ニ持ツヲイフ

二十二 置笏

笏ヲ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭ヲ把リ右膝ノ傍ニ置クヲイフ

二十三 把笏

右手ニテ笏頭ヲ把リ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏ノ下方ヲ把リ右方ニ把持スルヲイフ

二十四 懷笏

笏ヲ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭ヲ把リ懷中スルヲイフ行事ノ時及立禮ニテ拍手スル時等ニ



行フ所作ナリ

二十五 正笏

左右ノ手ニテ笏ノ下方ヲ把リ腹部ノ正前ニテ正シク持チ身體ヲ整フルヲイフ拜、揖等ノ時ニ行フ所作ナリ  
二十六 警蹕  
をトイフ音ヲ長ク引キテ唱フルヲイフ開閉扉及渡御等ノ時ニ行フ所作ナリ

下

一 階ノ昇降

一 神前ノ左方ヨリ昇ルモノハ右足ヨリシ右方ヨリ昇ルモノハ左足ヨリス  
一 神前ノ左方ヨリ降ルモノハ左足ヨリシ右方ヨリ降ルモノハ右足ヨリス  
一 昇降ハ一階毎ニ足ヲ聚ムヘシ

二 御扉ノ開閉

一 開扉ハ左手ニテ雄扉ノ端ノ上部ヲ持チ右手ニテ其ノ下部ヲ持チテ開キ雌扉ノ方ニ移リ右手ヲ上ニシ  
左手ヲ下ニシテ開ク

一 閉扉ハ雌扉ニハ左手ヲ上ニシ雄扉ニハ右手ヲ上ニス

三 祝詞ノ展卷

祝詞ヲ展フルニハ左手ニ卷ヲ持チ右手ニ折端ヲ持チ左側ニテ展フ之ヲ卷クモ亦左側ニ於テス

四 御鑰、祝詞、玉串、大麻等ノ持方

一 御鑰、祝詞、玉串、大麻等ハ左手ニテ上部ヲ右手ニテ下部ヲ執リ左高ニ捧持シ祝詞ハ折端ヲ内ニシテ握クカ如クス授クル時ハ總ヘテ反對ニ持チ換フヘシ

一 玉串ヲ奉奠スルニハ左手ヲ右手ノ元ニ下シ本ヲ神前ニ向ケ其ノ中程ヲ裏ヨリ右手ニテ持チ左手ヲ添ヘテ案上ニ置クヘシ

一 御鑰等ノ授受ハ上位ノ人ニハ下位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ上邊ヲ下位ノ人ニハ上位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ下邊ヲ執ラシムヘシ

一 授受ニハ總ヘテ懷笏スヘシ但シ齋主祝詞ヲ受クル時ハ之ヲ笏ニ受ケ授クル時ハ笏ニ添ヘテ授クヘシ

五 三方、案、薦、軾等ノ持方

一 三方ハ拇指ヲ左右ノ縁ニ他ノ指ヲ縁ト胴トニ掛ケテ持ツヘシ隅角ヲ遮

一 折敷高坏ハ右手ニテ高坏ヲ持チ左手ヲ折敷ニ添ヘテ持ツヘシ塗高坏モ亦之ニ準ス

一 案ハ左手ニテ裏ヲ支ヘ右手ヲ右方ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ但シ案小ナル時ハ兩手ヲ左右ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ

一 薦、軾等ハ右手ニテ端ヲ執リ左手ニテ中程ヲ支ヘ左ヲ少シク高ク上ケテ斜メニ持ツヘシ但シ薦ハ右前ニ卷キ軾ハ右前三折ニ疊ム又之ヲ舒フルトキ右端ヲ取ルニハ左手ヲ中程ニ右手ヲ下部ニ左端ヲ取ルニハ右手ヲ中程ニ左手ヲ下部ニ配スヘシ收ムルトキハ之ニ反ス

六 大麻、切麻ノ祓方

一 大麻ニテ祓フトキハ祓ヲ受クヘキ者ノ前ニ進ミ之ヲ持チ換ヘテ右手上  
左手下正前ニ捧ケ左右左ト振り畢リテ又之ヲ持チ換フヘシ

一 切麻ハ左手ヲ三方ノ左方ニ掛ケ右手ニテ切麻ヲ執リ左右左ト祓フヘシ

七 折敷、三方等ノ据方



一折敷又ハ三方等ハ縁ノ綴目ナキ方ヲ神前ニ向ク  
一神饌ヲ案上ニ奉奠スルトキ調理セサル魚鳥等首尾アルモノヲ正中若クハ右方ニ供スルニハ左頭トシ  
左方ニ供スルニハ右頭トス

第三編 雜載

一 祭場ノ座位

一正中ヲ上位トシ左ヲ次トシ右ヲ其ノ次トス  
一神前ニ近キヲ上位トシ遠キヲ下位トス

二 神饌獻撤ノ順序

一獻饌ノ順序ハ一和稻二酒、三餅、四海魚、五川魚、六野鳥、七水鳥、八海菜、九野菜、十菓、十一鹽トシ撤  
饌ノ時ハ最終ノ供饌ヨリス  
一神饌ノ臺數奇數ナルトキハ先ツ正中次ニ左方次ニ右方トシ偶數ナルトキハ先ツ左方次ニ右方ノ順序  
ヲ以テ奉奠ス

○府縣社以下祭典ハ官國幣社祭式ニ準據適宜執行セシム

明治八年八月十二日  
教部省達書第三十四號

官國幣社祭式本年四月中式部察ヨリ頒布相成候處府縣社以下ニ於テモ右ヲ準據トシ各社適宜ニ祭典執  
行爲致候儀ト可心得此旨相達候事

府 縣

○神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス

明治九年七月二十日  
教部省達書甲第五號

神宮竝官國幣社神官

諸神社神輿渡御之節供奉之者共從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社  
ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋へ届出候儀ト可心得此旨相達候事

明治十一年三月四日  
內務省達乙第二十一號

府 縣

諸神社神輿渡御之節供奉之者帶刀之儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以神宮竝官國幣社へ相達置  
候趣候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代之裝飾ニ模倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供  
奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋へ可爲届出儀ト可心得此旨相達候事  
但普通祭服著用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

○國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料

明治三十八年一月十九日  
內務省訓令第一號

國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料本年四月一日ヨリ左ノ通り改定ス  
北海道廳 府縣東京府、大阪府、埼玉縣、滋賀縣、奈良縣、熊本縣、沖繩縣ヲ除ク  
國幣中社 金貳拾五圓金拾八圓幣帛料、金七圓神饌料  
國幣小社 金貳拾圓金拾六圓幣帛料、金四圓神饌料

府縣社以下祭典ハ官國幣社祭式ニ準據適宜執行セシム 神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス 下卷 四五七  
國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料



○府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件 明治三十九年四月二十八日 勅令第九十六號

朕府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 府縣ハ府縣社、郡又ハ市ハ郷社、市又ハ町村ハ村社ノ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得  
前項ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ地方長官之ヲ指定ス  
第二條 前條神饌幣帛料ノ金額ハ内務大臣之ヲ定ム  
第三條 北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム (三十九年内務省令第一八號ヲ以テ四〇年一月一日ヨリ施行)

○府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額 明治三十九年六月二十八日 内務省令第十九號

明治三十九年勅令第九十六號第二條ニ依リ府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額左ノ通定ム

府縣社	金拾圓	金七圓	金七圓	金七圓	金七圓
郷社	金七圓	金五圓	金五圓	金五圓	金五圓
村社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓
付社	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓	金四圓

○北海道及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件 明治三十九年六月二十八日 内務省令第二十號

明治三十九年勅令第九十六號第三條ニ依リ北海道及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件左ノ通定ム  
北海道ニ於ケル縣社ニハ北海道地方費ヨリ郷社村社ニハ區又ハ町村區制一級町村制ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得  
東京府伊豆七島ニ於ケル府社ニハ府ヨリ郷社村社ニハ從前ノ例ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得  
長崎縣對馬島根縣隱岐及鹿兒島縣大島ニ於ケル縣社ニハ縣ヨリ郷社村社ニハ町村ヨリ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得  
神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ道廳長官府縣知事之ヲ指定ス  
神饌幣帛料ノ金額ハ明治三十九年六月内務省令第十九號ヲ適用ス  
本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官國幣社經費ニ關スル法 明治三十九年四月六日 法律第二十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官國幣社經費ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件 府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額  
北海道及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件  
官國幣社經費ニ關スル法 下卷 四五九



第一條 官國幣社ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ供進シ其ノ各社ニ對スル金額ハ内務大臣之ヲ定ム  
第二條 従前官國幣社ニ於テ積立テタル永遠資本金及維持元資金ハ官國幣社ノ基本財産トシ之ヲ費消スルコトヲ得ス

前項基本財産ノ利子及其他ノ財産並收入ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ經費ニ充ツルコトヲ得  
第三條 官國幣社ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ臨時ノ費用ニ充ツル爲第一條供進金ノ中ヨリ一定ノ積立ヲ爲スヘシ

前項ノ積立金ハ各社共通ノ費途ニ充テ内務大臣ハ内務省神社局長ヲシテ之ヲ保管セシメ其ノ收支ヲ取扱ハシム

第四條 従前官國幣社ニ於テ積立テタル官國幣社保存費共通金ハ前條各社共通金ニ編入ス

第五條 本法ハ官幣大社臺灣神社及別格官幣社靖國神社ニ適用セス

附則

第六條 第一條ニ依リ供進スル經費ハ天災事變ノ爲要スル臨時費用ノ外明治四十九年度ニ至ル迄毎年二十二萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四〇年勅令一號ヲ以テテ四〇年四月一日ヨリ施行)

○官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類

明治四十年一月十六日  
内務省訓令第一號

道廳 府 縣

官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類左ノ如シ

本社 本殿、幣殿、拜殿、祝詞屋、中門、透塀及玉垣 本殿周圍ノ、假殿必要缺クヘカラ 鳥居 必要缺クヘカラ、樓門、

廻廊、神饌所、社務所

奥宮 本殿、幣殿、拜殿

○官國幣社營繕ニ關スル規程 明治三十六年十月二十六日  
内務省訓令第十號

北海道廳 府縣

官國幣社營繕ニ關スル規程左ノ通相定ム

官國幣社營繕ニ關スル規程

第一條 建設物ノ新築又ハ増築ハ維持ノ目途確立シ風致ヲ害セサルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

神苑水道等ノ新設又ハ増設ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二條 明治十年<sup>四</sup>本省乙第四十七號達ニ依ル官營建物ノ再築、改築、増築ハ別記制限圖ノ坪數ニ超過スルコトヲ得サルモノトス

但特別ノ事情アル場合ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第三條 特別ノ事由アルモノニアラサレハ下付ノ保存金及保存金ノ殘餘ヲ以テ建設物ノ新築、増築及神苑水道等新設増設ノ費ニ充ツルコトヲ得サルモノトス

第四條 保存金ノ下付ヲ受ケサル神社ニ就テハ維持元資金ノ利子ヲ以テ保存金ト見做シ明治十年<sup>四</sup>本



省乙第四十七號達、本規程第二條及前條ヲ準用スルモノトス

第五條 左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ

- 一 建設物ヲ新築又ハ増築シ及神苑、水道等ヲ新設又ハ増設セントスルトキ
- 二 本殿、四百年以前ノ建物、特別由緒アル建物又ハ建築優秀ナル建物ノ再築、改築及模様替ヲ爲サントスルトキ

第六條 第五條第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外建設物又ハ神苑水道等ノ再築、改築、模様替ヲ爲サントスルトキ及工費一廉三十圓以上ノ修繕ヲ爲サントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ

第七條 臨時營繕ノ爲メ各社共通金ノ支出ヲ要スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ此場合ニ於テ不用古材ノ賣却代金ハ該工費ニ加フヘキモノトス

第八條 第五條第二號ノ建設物ヲ廢棄セントスルトキハ内務大臣ニ稟請セシメ其他ノ建設物ヲ廢棄シ又ハ神苑、水道等ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ

第九條 營繕工事一廉三百圓以上ナルトキハ其執行方法ハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ各社共通金ヨリ支出シタル營繕工事竣功セルトキハ直チニ其工費精算ヲ内務大臣ニ報告セシムヘシ

第十條 營繕ノ爲メ生シタル不用古材ニシテ價格一廉三十圓以上ノモノノ處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第十一條 第二條但書第五條及第七條ニ依ル稟請ノ場合ニハ工事ノ金額、設計並圖面ヲ添付セシムヘシ

但第五條第一號ニ依ル場合ハ維持ノ方法ヲモ具セシムルヲ要ス

第十二條 此規程ニ依リ内務大臣ニ差出スヘキ書面ハ地方長官ヲ經由セシムヘシ  
第十三條 従前ノ令達ニシテ此規程ニ抵觸スルモノハ廢止ス

(別記制限圖 明治二十二年九月本省訓第六四二號訓令中ノ制限圖ニ同シ)

○神社財産ニ關スル法 明治四十一年三月二十日 法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル神社財産ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ神社ト稱スルハ官國幣社、府縣社以下ノ神社ヲ謂ヒ財産ト稱スルハ神社ノ不動産及寶物ニシテ登録ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ神社財産ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無効トス神社ノ負債ニ亦同シ

第三條 神社財産ヲ處分スル場合ニ於テ其ノ神社ノ神職、氏子總代及崇敬者總代ハ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第四條 神社財産タル境内地、社殿其ノ他境内地ニ在ル工作物及寶物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
第五條 神社ノ不動産及寶物ハ地方長官ニ於テ保管スル臺帳ニ登録ヲ受クヘシ

登録ニ關スル事項及登録ト不動産登記トノ關係ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (四一年勅令第一七六號ヲ以テ) (同年十月一日ヨリ施行)



本法ハ別格官幣社靖國神社ニ之ヲ適用セス

○神社財産ノ登録ニ關スル件 明治四十一年七月十八日 勅令第百七十七號

朕神社財産ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 神社財産ノ登録ハ神社所在地ノ地方廳ニ於テ之ヲ爲ス
- 第二條 神社財産ヲ登録スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ト稱シ不動産登録臺帳及寶物登録臺帳ノ二種トス
- 神社財産登録臺帳ニ登録スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一 土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境内地境外地ノ區別
  - 二 社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社殿其ノ他工作物ノ種類、若名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ間數、境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別
  - 三 寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、若作者又ハ傳來明カナルトキハ其ノ作者又ハ傳來
  - 四 登録ノ年月日、番號
- 第三條 神社ハ不動産又ハ寶物ヲ取得シタルトキハ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ但シ土地及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登記ヲ經ルコトヲ要ス
- 前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間内ニ申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタルトキヨリ十五日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

登録事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同シ

第四條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ爲シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク神社財産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第五條 神社ハ神社財産ヲ處分シタルトキ若ハ其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ七日以内ニ登録ノ抹消ヲ申請スヘシ

第六條 登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社財産ノ登記アル不動産ニ付民事訴訟法第七百條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク神社所在地ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ不動産ノ登録ヲ抹消スヘシ

第七條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ抹消シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク神社財産ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附 則

本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動産及寶物ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

○神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件 明治四十一年七月二十日 內務省令第十二號

(改正四二年省令一四號)



神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件左ノ通定ム

第一章 登録

第一條 地方廳ニ於テ保管スル神社財産登録臺帳ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 神社ニ於テ登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ(四二年省(一四號))

第二章 管理

第三條 神社ハ不動産、寶物其ノ他貴重ノ書畫什器類ハ之ヲ臺帳ニ登載シ其ノ増減變更アリタルトキハ加除訂正スヘシ

不動産及寶物ヲ登載スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ノ様式ニ準シ調製スヘシ

第四條 寶物及貴重品ハ其ノ容器又ハ適當ナル箇所ニ番號票ヲ附シ臺帳ニ其ノ合番號ヲ記入スヘシ

第五條 左ニ掲クル事項ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一 不動産、寶物其ノ他貴重品ヲ買入ルルコト

二 負擔附ノ寄附ヲ受クルコト

三 寶物其ノ他貴重品ヲ神社外ニ持出スコト

第六條 用途指定ノ寄附金品ハ其ノ用途以外ニ使用又ハ處分スルコトヲ得ス

第三章 會計

第七條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 毎年度收入支出ハ豫算ヲ定メ毎年二月末日マテニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第九條 收入支出ハ神職ノ職名ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

第十條 收入支出ハ帳簿ニ記入シ記入毎ニ神職檢印ヲ捺スヘシ

第十一條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルニ非レハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十二條 毎年度收支決算並資金明細書ハ翌年五月三十一日マテニ地方長官ニ報告スヘシ

第十三條 毎年度社入金ノ百分ノ五以上ハ基本財産トシテ積立ツヘシ

第十四條 基本財産ハ其ノ神社維持ノ爲已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非レハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十五條 基本財産ヨリ生スル收入ハ經費ニ充用スルコトヲ得

第十六條 基本財産ハ國債登録、公債證書其ノ他ノ確實ナル有價證券ト爲スカ又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ土地ヲ買入又ハ前項以外ノ銀行ニ預入若ハ其ノ他ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十七條 有價證券ハ中央金庫、郵便官署、日本銀行、日本興業銀行ニ保管ヲ委託スヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項以外ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十八條 従前積立タル資金ハ基本財産ニ編入スヘシ但シ特別ノ目的ヲ以テ積立タルモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ整理スヘシ

第十九條 古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ特別ニ整理スヘシ

第二十條 官國幣社ノ會計ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則











八百圓以上 百分ノ十九  
 千圓以上 百分ノ二十二  
 三千圓以上 百分ノ二十四  
 五千圓以上 百分ノ二十六

第六條 毎年度收入支出ハ別記様式ニ依リ豫算ヲ調製シ前年度二月末日迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ追加更正ヲ要スルトキハ其ノ時時認可ヲ受クヘシ

第七條 豫算各項ノ金額ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ營繕費ハ他ニ流用スルコトヲ得ス

第八條 毎年度收支決算並ニ資金明細書ハ別記様式ニ依リ二通ヲ作り翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第九條 會計帳簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

第十條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十一條 經費ノ剩餘ハ剩餘蓄積金ニ編入スヘシ

第十二條 社入金中ヨリ寄贈ヲナサントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方長官ニ於テ其ノ年度社入金豫算二十分ノ一以上ノ寄贈ヲ認可セントスルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十三條 過誤拂ト爲リタル金額ハ其ノ年度内ニ在テハ之ヲ支拂ヒタル經費ニ戻入レ年度經過ノ後ハ

剩餘蓄積金ニ編入スヘシ

第十四條 經費取扱ノ爲メ特ニ爲替方ヲ設ケントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 各社共通金

第十五條 各社共通金トシテ國庫供進金ヨリ積立ツヘキ額ハ其ノ一分五厘トス

第十六條 各社共通金ヨリ支出スヘキ費途ハ臨時營繕費及官司赴任旅費トス

第十七條 各社共通金ヨリ支出セル臨時營繕費ハ別途整理スヘシ

前項營繕費ニ殘金ヲ生シタルトキハ之ヲ各社共通金ニ戻入ルヘシ

第三章 資金

第十八條 資金ノ種別ハ左ノ如シ

一 基本財産

二 豫備資金

第五條ニ依リ積立タル資金及其利子ニシテ臨時營繕費ニ充ツルモノトス

從前ノ非常豫備金ハ豫備資金ニ編入ス

三 剩餘蓄積金

第十一條ニ依リ蓄積シタル資金及其ノ利子ニシテ經費不足ノ場合ニ於テ其ノ補足ニ充ツルモノトス

從前ノ經費及營繕費殘蓄積金社入殘蓄積金ハ剩餘蓄積金ニ編入ス

四 各種ノ資金

第十九條 資金ハ各別ニ整理スヘシ



第二十條 用途ノ定マレル各種ノ資金ハ其ノ目的ニ反シテ費消スルコトヲ得ス

第二十一條 基本財産ノ利子ヲ經費ニ充テントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方長官ニ於テ其ノ年ノ利子三分ノ一以上ノ支出ヲ認可セントスル場合ハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第二十二條 豫備資金、剩餘蓄積金及各種ノ資金ヲ支出セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

但シ地方長官ニ於テ豫備資金ノ支出ヲ認可セントスルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

永代神饌料、永代燈油料ノ類ニシテ年年其ノ利子ヲ支出スヘキ目的ニ成レル資金ノ利子支出ニ就テハ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第二十三條 資金ハ國債證券若ハ地方長官ノ認可シタル種類ノ有價證券ト爲スカ又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情ニ因リ前項ニ依リ難キモノハ基本財産ノ外地方長官ノ認可ヲ得テ他ノ銀行ニ預入ルルコトヲ得

第二十四條 有價證券ハ中央金庫、郵便官署、日本銀行又ハ日本興業銀行へ保管ヲ委託スヘシ

特別ノ事情ニ因リ前項ニ依リ難キモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ他ノ銀行ニ保管ヲ委託スルコトヲ得

第四章 責任

第二十六條 會計主任ハ禰宜、主典ノ中ヨリ宮司之ヲ定メ地方長官ニ報告スヘシ會計主任疾病其ノ他

事故ノ爲メ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ宮司ニ於テ他ノ禰宜、主典ヲシテ事務ヲ代理セシメ地方長官ニ報告スヘシ

第二十七條 會計主任及其ノ代理者ハ現金又ハ有價證券ノ保管ニ就キ責任ヲ負フモノトス

第二十八條 會計主任及其ノ代理者ハ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ事由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ代理者ヲ置キタル場合ニハ會計主任ハ其ノ代理者ノ行爲ニ就テハ責任ヲ負ハサルモノトス

第二十九條 地方長官ニ於テ會計主任及其ノ代理者ノ過失又ハ怠慢ニ因リテ損失ヲ生シタルト認ムルトキハ之ヲ辨償セシムルコトヲ得

第五章 雜則

第三十條 現金ヲ受入レタルトキハ鎖鑰アル金櫃ニ保管シ其ノ鎖鑰ハ會計主任ニ於テ監守シ金櫃ニハ宮司又ハ其ノ代理者ト會計主任トノ相封ヲ爲スモノトス

前項金櫃ハ社務所ニ於テ會計主任之ヲ格護シ會計主任退出後ハ宿直ノ者ニ於テ之ヲ監護スルモノトス

第三十一條 賽錢箱ハ鎖鑰ヲ設ケ會計主任及宮司又ハ其ノ指定セル神職ノ立合ヲ以テ開封セシムヘシ

第三十二條 地方長官ハ社入金ヨリ神職及雇員ニ對シ毎月手當ヲ給スルコトヲ得

第三十三條 撤下ノ神饌、幣帛又ハ供物ハ慣例ニ依リ神職及雇員ニ頒賜スルコトヲ得

第三十四條 古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ別途整理シ剩餘ヲ生シタルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得テ處分スヘシ



























同	日	社入金	〇	〇〇	〇				
同	日	國庫供進金	一〇〇〇	〇〇	一				
同	日	經費支拂	一		二〇	五〇			
計			一〇三〇	〇〇〇	三〇	五〇〇	九	五〇〇	一〇〇〇

備考

一本簿ニハ經費一切ノ收入支出ヲ記載スルモノトス  
 一收入ノ内社入金ハ社入金簿總括當日ノ計ニ依リ記入シ其ノ他ノ收入及資金ヨリ繰入ルルモノハ直ニ本簿ニ記入スヘシ  
 一經費支拂額ハ經費支出簿社費及營繕費當日ノ支拂高ヲ合セテ記入スルモノトス

何年度社入收入簿

同	年	月	日	金	額
同	明治四十年	四月	一日		一五〇
同		四月	二日		〇〇
同					〇〇

總括

通計	賽物其他收入	年	月	日	摘要	金額
同		明治四十年	四月	一日	一等守札二十體授與料	一〇四〇
同					神饌料	五〇〇
合計						一五〇〇
通計						〇〇〇

備考

一本簿ハ收入第三項社入金ニ屬スル各目毎ニ記載シ尙ホ其總括ヲ記入スヘシ  
 但シ成ルヘク一冊トシ口別整理スヘシ  
 一各目摘要欄ニハ收入ノ事由ヲ可成詳細ニ記入スヘシ  
 一總括ニハ毎月計及通計ヲ付シ各目ニハ毎日計ヲ付シ毎月合計及通計ヲ付スヘシ

何年度經費支出簿



社費		豫算		要		支出額		豫算殘額	
年	月 日	摘要	支出額	豫算	支出額	豫算殘額	支出額	豫算殘額	支出額
明治四十年	四月二日	祭典費外二目支拂	一五〇〇	一五〇〇	一、四八四	五〇〇	一、四八四	五〇〇	五〇〇
同	三日	應費、旅費、支拂	二三	〇〇〇	一、四七一	五〇〇	一、四七一	五〇〇	五〇〇
同	四日	何々々	、	、	、	、	、	、	、
計									
通									
社費、祭典費		豫算		三、五〇〇〇〇					
節年	月 日	摘要	支出額	豫算殘額	支出額	豫算殘額	支出額	豫算殘額	支出額
(神)	明治四十年四月二日	神酒一升代何某へ拂	四	五〇〇	一四	五〇〇	一四	五〇〇	五〇〇
(神)	同	何魚何尾代何某へ拂	六〇〇	一	一	一	一	一	一
(器)	同	三方何箇代何某へ拂	一	〇〇〇	一	〇〇〇	一	〇〇〇	〇〇〇
計			二	一〇〇	二四七	九〇〇	二四七	九〇〇	九〇〇
合計									

社費		豫算		要		支出額		豫算殘額	
年	月 日	摘要	支出額	豫算	支出額	豫算殘額	支出額	豫算殘額	支出額
四十年	四月一日	前年度越高	一〇〇四	一〇〇〇	一四	一〇〇四	一〇〇四	一〇〇〇	一〇〇四
同	六月一日	整理公債證書百圓ニ對スル利子	五	〇〇〇	一	一〇〇五	一〇〇五	一〇〇〇	一〇〇〇
同	二日	經費補充トシテ經費へ繰入ル	一	一〇〇	一	一〇〇	一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
計			一〇〇九	一〇〇〇	一五	一〇一五	一〇一五	一〇〇〇	一〇〇〇
四十年	七月一日	何々費何某へ仕拂	三	〇〇〇	三	九七	九七	〇〇〇	〇〇〇
同	十日	何々費何某へ仕拂	五	〇〇〇	五	九三	九三	〇〇〇	〇〇〇
合計									

備考

一本簿ハ各項目毎ニ記載整理スヘキモノトス  
 一項目ノ支出ニ就テハ項ニ屬スル各目支拂額ヲ合算一口ニ記入シ毎月計及通計ヲ付スヘシ  
 一目ノ支出ニ就テハ支拂一件毎ニ物品、數量、渡先キ等ヲ記入シ其上欄ニ其當該ノ節ノ符號ヲ記入スヘシ而シテ二件以上ノ支拂アルトキハ日計ヲ付シ毎月合計及通計ヲ付スヘシ  
 一本簿ハ成ルヘク一冊トシ口座ヲ設ケテ區別スヘシ

何年度何資金現金出納簿







備考

- 一 土地ハ一筆毎ニ記入スルモノトス
- 一 摘要ノ欄ニハ取得ノ事由ヲ記スルモノトス
- 一 異動アル毎ニ計ヲ付スヘシ

建物ノ部		所在地	建物種類	構造	建坪數	時	價	摘要
同	何縣何郡何村字何々何番地	住屋	平屋	五十坪	〇〇〇	〇〇〇		

備考

- 一 建物ハ一棟毎ニ記入スルモノトス

○招魂社へ受持神官墳墓へ監守者ヲ置ク  
明治二十三年三月十三日 内務省訓令第八號

招魂社へ受持神官墳墓へ監守者ヲ置招魂社費並招魂社營繕費ノ受取方及該費收支ノ事ヲ取扱ハシムヘシ但給料ハ該金額内ヲ以テ適宜支辨スヘシ

北海道廳 府縣奈良靜岡山梨島根和歌山德島愛媛沖繩ノ八縣ヲ除ク

○招魂社費招魂社營繕費取扱順序  
明治二十三年三月十三日 (改正二三年訓令第九號)

北海道廳 府縣奈良靜岡山梨島根和歌山德島愛媛沖繩ノ八縣ヲ除ク

招魂社費並招魂社營繕費取扱順序左ノ通相定ム二十三年度以降右ニ照準取扱フヘシ

招魂社費招魂社營繕費取扱順序

- 一 招魂社費並招魂社營繕費ノ内招魂社ニ屬スル金額ハ該招魂社受持神官へ下渡スヘシ
- 一 招魂社營繕費ノ内墳墓ニ屬スル金額ハ墳墓監守者へ下渡スヘシ
- 但北海道廳長官府縣知事ハ墳墓箇數ノ多寡ニヨリ其管内限り定額金ヲ彼是流用下渡スコトヲ得(二三年訓令)
- 一 二十二年度以前該費ニ係ル殘金ハ各自ニ計算相立下渡スヘシ
- 但從前一管内彼此流用支出セシ金額ハ其儘打切互ニ償還ヲ爲スニ及ハス
- 一 招魂社並墳墓費金ノ殘額ハ後來不足補充ノ爲メ積立置大藏省預金局又ハ逓信省爲換貯金局へ預入ヲ爲サシムヘシ
- 一 招魂社並墳墓へ寄附金額モ右ニ準シ取扱ハシムヘシ
- 一 招魂社並墳墓へ下渡金額ノ出納ハ其地方廳ニ於テ嚴密監督スヘシ
- 一 招魂社並墳墓費金ノ收支ハ毎年度末ノ計算書差出サセ年度經過後二箇月ヲ限り地方廳ヨリ内務省へ報告スヘシ

招魂社へ受持神官墳墓へ監守者ヲ置ク 招魂社費招魂社營繕費取扱順序



○招魂社並ニ墳墓共修繕等處分方

明治二十三年八月二十二日  
内務省訓令第二十九號

招魂社並墳墓共修繕等ノ儀ハ該受持神官監守者ヨリ其應ヘ爲申立適宜處分スヘシ  
但改造及有形變更ハ當省ヘ伺出ツヘシ  
北海道廳 府縣 奈良其靜岡山梨島根和歌山德島  
香川愛媛沖繩ノ九縣ヲ除ク

○教導職ヲ廢シ教宗派ノ取締ヲ神佛各管長ニ委任スルノ件

明治十七年八月十一日  
太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

- 第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス
- 第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ
- 但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ
- 第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ【内務卿】ノ認可ヲ得可シ
- 第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ【内務卿】ノ認可ヲ得可シ
- 一 教規
- 一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ムヘキ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ【内務卿】ノ認可ヲ得テ之ヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

○管長身分取扱方

明治十七年八月十一日  
太政官布達第六十八號

神佛各宗派一般

管長身分ノ儀ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

右相達候事

○神佛各教宗派内ノ者願書差出方

明治二十二年五月二十七日  
内務省訓令第二十二號

神佛各教宗派管長

管長身分取扱方 神佛各教宗派内ノ者願書差出方



神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

○教師僧侶ノ懲戒處分届出方 明治二十七年二月五日 内務省訓令第四號

神佛各教宗派管長

自今教師僧侶ニ對シ教規宗制等ニ規定セル懲戒法ニヨリ教師住職ヲ罷免シ又ハ派内擯斥ノ處分ヲ爲シタルトキ若クハ右處分ノ後更ニ減免等前懲戒ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ其人名處分及事由ヲ略記シ其都度届出ヘシ

○離末本寺換届出方 明治十一年二月一日 内務省達乙第八號

府 縣

離末本寺換之儀是迄各寺ヨリ管轄廳へ出願致管轄廳ヨリ當省へ伺來候處自今同宗派内之分ハ本末寺協議濟之上新舊本寺承諾之書面相添管轄廳へ爲届出其都度當省へ届出候儀ト可心得此旨相達候事 但他宗派へ附屬候向ハ從前之通タルヘシ

○宗教宣布者及堂宇會堂說教所ノ類設立廢止等ノ場合届出ニ關ス

ル件 明治三十二年七月二十七日 (改正三十五年省二二號) 内務省令第四十一號

第一條 宗教ノ宣布ニ從事セントスル者ハ左記事項ヲ具シ履歷書ヲ添へ其住所、住所ナキトキハ居所ヲ管轄スル地方長官へ届出ヘシ

一 宗教ノ名稱

二 布教ノ方法

本令施行前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事スル者ハ本令施行後二箇月以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ  
前二項ノ届出ヲ爲シ宗教ノ宣布ニ從事スル者之ヲ廢罷シタルトキハ所轄地方長官ニ届出ヘシ (三五號)

第二條 宗教ノ用ニ供スル爲メ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立セントスル者ハ左記事項ヲ具シ其所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一 設立ヲ要スル理由

二 設置ヲ終ルヘキ期限

三 名稱、所在地並敷地及建物ニ關スル重要ナル事項但圖面ヲ添フヘシ

四 宗教ノ名稱

五 管理及維持ノ方法

六 擔當布教者ヲ置クトキハ其資格及選定方法

前項第二號ノ期限内ニ於テ前項ノ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設置セサルトキハ前項ノ許可ハ其效力ヲ失フ

本令施行前ヨリ宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ第一項ニ掲クル事項ヲ本令施行後二箇月以内ニ所轄地方長官へ届出ヘシ

教師僧侶ノ懲戒處分届出方 離末本寺換届出方 宗教宣布者及堂宇會堂說教所ノ類設立廢止等ノ場合届出ニ關スル件



前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條 前條ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ管理者及擔當布教者ノ履歷書ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ其管理者又ハ擔當布教者ヲ變更增加シタル場合亦同シ

第四條 第一條第一項各號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキ及住所又ハ居所ヲ移轉シタルトキハ宗教ノ宣布ニ從事スル者ヨリ二週日以内ニ所轄地方長官ヘ届出ヘシ但第一條第一項第二項ノ届出ヲ爲シタル應府縣以外ニ住所又ハ居所ヲ移シタルトキハ舊住所又ハ舊居所ヲ管轄スル地方長官ニ届出テ新住所又ハ新居所ヲ管轄スル地方長官ヘ更ニ第一條第一項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

第二條各號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ヨリ理由ヲ具シ更ニ所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但所在地ノ變更ニ係ルトキハ移轉先地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ廢止又ハ移轉シタルトキハ二週間以内ニ廢止又ハ移轉前ノ所轄地方長官ヘ届出ヘシ

第五條(三八年省) 第二條ニ依リ設立シタル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ノ設立者又ハ管理者ハ毎年十二月三十一日現在ノ信徒數ヲ翌年一月三十一日限り所轄地方長官ヘ届出ヘシ

第六條 神佛道ノ布教者及其寺院佛道教會所等ノ設立移轉廢止ニ關シテハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第七條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

○宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ

關スル規程 明治三十三年八月一日  
內務省令第三十九號

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

- 一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱
- 二 儀式及布教ノ方法
- 三 布教者ノ資格及選定方法
- 四 信徒ト法人ノ關係
- 五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數
- 六 宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ其名稱、所在地及設立許可ノ年月日

第二條 前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第三條 第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ管長







今般戊第二號ヲ以佛道各管長へ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止顛末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締へ通知スヘシ此旨相達候事

明治十四年八月十五日  
内務省達戊第二號

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

托鉢免許方並托鉢者心得

- 一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スヘシ
  - 一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
  - 一 但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
  - 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ步ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フ許サス
  - 一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス
  - 一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス
- 標牌雛形  
木製

縦六寸 横二寸

表 ○ 何宗派 管長印 托鉢免許之證	裏 ○ 年 月 日 何某 年月日生
--------------------------------	-------------------------------

燒印

第何號  
 何府國 郡區  
 何町村  
 何寺 住職 徒弟  
 教導職名 試補

○佛像出開帳出願手續

明治十七年三月十九日  
内務省達乙第十六號



明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管持出開帳之儀ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院ハ信徒總代及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願セシムヘシ此旨相達候事  
但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○神佛教務所說教所取調並諸願差出方

明治十七年十月三十日  
內務省達乙第三十七號

府

縣

- 一 神佛教務所教院教會所法務所 說教所說教ノミ ハ國並宗派ニ分チ六月三十日十二月三十一日ノ現數半年毎ニ取調翌七月一月兩度ニ當省へ差出ス可シ
- 一 祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財產ニ關スル諸願寺院ハ本寺 法類連署 管長ノ添署ヲ要ス可シ

右相達候事

○神佛教務所說教所設立移轉廢合並寺院住職進退届出方

明治十七年十月三十日  
內務省達乙第三十八號

府

縣

別紙戊第二號ノ通佛神各管長へ相達候條第二項ノ件出願許可又ハ届出ノ分共月末取纏メ當省へ可届出此旨相達候事

明治十七年十月三十日  
內務省達乙第二號

神佛各管長

- 一 教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分チ半年毎ニ取調翌一月七月兩度ニ當省へ届出ツ可シ
- 但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地地方教務所說教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ
- 一 教務所教院教會所法務所 說教所說教ノミ 取設ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其移轉廢合ハ届出ツ可シ
- 但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ
- 一 祠宇並寺院ノ廢立及財產ニ關スル諸願ハ管長添書ス可シ
- 一 寺院住職進退ハ其都度地方廳へ届出ツ可シ

右相達候事

○葬儀執行ノ爲メ祠宇建設ノ儀出願ノ節伺出方

明治十五年一月二十三日  
內務省達乙第四號

府

縣

今般祠宇建設ノ儀別紙戊第一號之通相達候條該教導職並教徒信徒ヨリ出願候ハハ十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以廉廉精査ノ上當省へ可伺出此旨相達候事

神佛教務所說教所取調並諸願差出方 神佛教務所說教所設立移轉廢合並寺院住職進退届出方 葬儀執行ノ爲メ祠宇建設ノ儀出願ノ節伺出方



明治十五年一月二十三日  
内務省達戊第一號

神道副總裁  
照住派  
同修成派 管長

昨十四年戊第三號ヲ以教院教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候處自今神道教導職奉教ノ主義ヨリ其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方廳へ出願スヘシ此旨相達候事

一 祠宇建設ヲ要スル理由

一 諸建物坪數繪圖面目論見仕様竝境內坪地種名受共

一 永續資本ノ動不動財產竝葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數

○神官ハ葬儀ニ關係セス府縣社以下神官ハ舊ニ依ル

明治十五年一月二十四日  
内務省達乙第七號

府 縣

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事  
但府縣社以下ハ神官當分從前之通

○古社寺保存法 明治三十年六月五日  
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古社寺保存法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

古社寺保存法

- 第一條 古社寺ニシテ其ノ建造物及寶物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下付ヲ内務大臣ニ出願スルコトヲ得
- 第二條 國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物及寶物類ハ歴史ノ證徴、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ内務大臣之ヲ定ム
- 第三條 前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官之ヲ指揮監督ス
- 第四條 社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歴史ノ證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保存會ニ諮詢シ内務大臣ニ於テ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得
- 第五條 特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ内務大臣ノ許可ヲ得テ國寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前條ノ物件ハ神職（官國幣社ニ在テハ宮司、府縣郷社ニ在テハ社司、村社以下ニ在テハ社掌以下ニ在テハ社司）若ハ住職之ヲ監視シ内務大臣ノ監督ニ屬スルモノトス但シ内務大臣ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得
- 第七條 社寺ハ内務大臣ノ命ニ依リ官立又ハ公立ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス但シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

神官ハ葬儀ニ關係セス府縣社以下神官ハ舊ニ依ル 古社寺保存法



前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ニ依リ國寶ヲ出陳シタル社寺ニハ命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支給スルモノトス

第九條 神職住職其ノ他ノ監守者ニシテ内務大臣ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ内務大臣ハ其ノ出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條 社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ管理ス  
保存金ハ豫算額ヲ以テ之ヲ下付ス但シ精算ノ上剩餘アルトキハ内務大臣ハ之ヲ還付セシムルコトヲ得

第十一條 社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
第十二條 第十條及第十一條ノ保存金ハ其ノ利子ヲ包含スルモノトス

第十三條 監守者其ノ監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ、毀棄シ、隱匿シ若ハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條ノ物件ナルコトヲ知リテ之ヲ讓受ケ、借受ケ、擔保ニ取り、寄藏シ若ハ其ノ牙保ヲ爲シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス  
過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規定ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ國

庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スルモノトス但シ其ノ評價額ニ關シテハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條 本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年拾五萬圓乃至貳拾萬圓トス

附則

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ内務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スルコトヲ得

第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサルモノト雖所有者ノ請求アルトキハ第七條第一項ニ掲ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セサルモノト雖仍本法ヲ準用スルコトヲ得  
第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○古社寺保存法施行細則 明治三十年十二月十五日 内務省令第三十五號

古社寺保存法施行細則左ノ通相定ム

古社寺保存法施行細則

第一條 古社寺保存法第一條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳具シ之ヲ内務省ニ差出スヘシ

一 出願ノ事由